

令和7(2025)年度

学習院大学大学院 人文科学研究科

学生募集要項

人文科学研究科

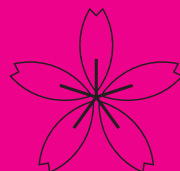
博士前期課程

博士後期課程

- 哲学専攻
- 美術史学専攻
- 史学専攻
- 日本語日本文学専攻
- 英語英米文学専攻
- ドイツ語ドイツ文学専攻
- フランス文学専攻
- 心理学専攻
- 臨床心理学専攻
- 教育学専攻
- アーカイブズ学専攻
- 身体表象文化学専攻

必ずお読みください

本要項の記載内容は変更となる場合があります。最新の情報は本学入試情報ホームページに掲載する「入試制度の変更点」にてお知らせしますので、必ず出願前(入学検定料納付前)及び受験前にご確認ください。



学習院大学

目 次

研究科・専攻・定員	2
2025 年度 入学試験日程	3
入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	3 - 11
博士前期課程	
秋期入学試験	13 - 19
春期入学試験	20 - 27
博士後期課程	29 - 35
参考	
2024 年度入学者納付金	37
過去 3 年間の大学院入学試験結果一覧表	38 - 40
構内案内図	41
外国送金による入学検定料の振込について	42
入学検定料の返還について	43
在留資格の取得について	43
人文科学研究科の概要	45 - 61

研究科・専攻・定員

研究科	専攻	前期課程		後期課程	
		入学定員(名)	収容定員(名)	入学定員(名)	収容定員(名)
人文科学研究科	哲学専攻	10	20	3	9
	美術史学専攻	10	20	3	9
	史学専攻	15	30	3	9
	日本語日本文学専攻	20	40	3	9
	英語英米文学専攻	10	20	3	9
	ドイツ語ドイツ文学専攻	5	10	2	6
	フランス文学専攻	5	10	2	6
	心理学専攻	6	12	2	6
	臨床心理学専攻	12	24	3	9
	教育学専攻	20	40	5	15
	アーカイブズ学専攻	15	30	3	9
	身体表象文化学専攻	10	20	3	9

個人情報の取扱いについて

本学では、個人情報について、法律及び「学習院個人情報保護規程」に基づき慎重に取り扱っております。

出願及び入学手続においてご記入いただいた住所、氏名、生年月日等の個人情報は、「入学試験の実施」、「合格発表」、「入学手続」及びこれらに付随する業務の処理を行うために利用します。

また、統計処理した上記個人情報を、本学における「入学者選抜方法の検討」、「教育改善のための調査・研究」、「大学の管理運営（各種調査・分析、事業企画）」、「広報活動」及びこれらに付随する業務のための資料として利用します。

なお、処理業務の一部は、本学アドミッションセンターより機密保持条項を含む契約を締結した業者に委託し、その際、必要な範囲で個人情報の全部又は一部を提供しますので、あらかじめご了承ください。

2025 年度 大学院入学試験日程

博士前期課程

※学内推薦を除きます。

研究科・試験区分		出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日	延納分納入締切日
人文学	秋期 (全専攻)	2024年8月15日(木) ～8月19日(月)	筆記9月21日(土) 口述9月21日(土)・22日(日)	9月27日(金)	10月11日(金)	2025年 3月7日(金)
	春期 (全専攻)	2025年1月14日(火) ～1月16日(木)	筆記2月17日(月) 口述2月17日(月)・18日(火)	2月21日(金)	3月7日(金)	/

博士後期課程

※学内推薦を除きます。

研究科・試験区分		出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日	延納分納入締切日
人文学	一般	2025年1月14日(火) ～1月16日(木)	筆記2月17日(月) 口述2月17日(月)・18日(火)	2月21日(金)	3月7日(金)	/

※上記日程は変更となる場合があります。最新の情報は本学入試情報ホームページに掲載する「入試制度の変更点」にてお知らせしますので、必ず出願前（入学検定料納付前）及び受験前にご確認ください。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

学習院大学では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、各学部・学科及び研究科・専攻で掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

【博士前期課程】

人文科学研究科（博士前期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、専攻ごとに掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

【博士後期課程】

人文科学研究科（博士後期課程）では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、専攻ごとに掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

哲学専攻（博士前期課程）

哲学専攻（博士前期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

（知識・技能）

1. 志望する研究分野を学ぶために必要な基礎知識、及び研究遂行に必要となる語学力・原典読解力・テキスト分析能力を身につけている。

(思考・判断・表現)

2. 自らの観点を自覚し、その観点から問題を論理的に考え、提示された答に含まれる前提・推論・帰結を的確に表現し、それらを効果的に伝達できる。

(関心・意欲・態度)

3. 自発的に研究課題を設定し、それを持続的かつ徹底的に究明する意欲と態度を持っている。
4. 研究課題の遂行のために必要となる他の関連問題に関して知識を得て、研究課題への関心を深化させることができる。

哲学専攻（博士後期課程）

哲学専攻（博士後期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 志望する研究分野を学ぶために必要な基礎知識、及び研究遂行、とくに博士論文作成に必要な一層高度な語学力・原典読解力・テキスト分析能力を身につけている。

(思考・判断・表現)

2. 自らの観点を自覚し、その観点から問題を論理的に考え、提示された答に含まれる前提・推論・帰結を的確に表現し、それらを効果的に伝達できる。

(関心・意欲・態度)

3. 自発的に研究課題を設定し、それを持続的かつ徹底的に究明する意欲と態度を持っている。
4. 研究課題の遂行のために必要となる他の関連問題に関して知識を得て、研究課題への関心を深化させることができる。

美術史学専攻（博士前期課程）

美術史学専攻（博士前期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 志望分野を学ぶための基礎的な専門知識や研究に必要な語学力を備えている。

(思考・判断・表現)

2. 自身の見地から物事を論理的に考え、その内容、過程、結果などを的確に表現し、伝えることができる。

(関心・意欲・態度)

3. 自発的に諸問題へ関心を持ち、その関心をより深めるために学問、調査、研究を行う意欲がある。

美術史学専攻（博士後期課程）

美術史学専攻（博士後期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 自らの研究領域についての高度な専門的知識と研究資料の講読に必要な外国語能力を有している。

(思考・判断・表現)

2. 博士前期課程における専門的な研究を踏まえ、独創的な学術的思考を展開することができる。

(関心・意欲・態度)

3. 自発的に諸問題へ関心を持ち、その関心をより深めるために学問、調査、研究に主体的に取り組む意欲がある。

史学専攻（博士前期課程）

史学専攻（博士前期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

（知識・技能）

1. 専攻しようとする歴史分野に関する基本的な専門知識を有し、卒業論文等の執筆の経験があって歴史学の研究手法の基礎を習得している。
2. 希望する歴史分野での研究で用いる史料読解に必要な古典語、外国語の語学力を身につけている。

（思考・判断・表現）

3. 人類の過去の歴史的社会のあり方や様々な歴史現象に幅広い関心を有し、それについて自らの経験と知識に基づいて、論理的かつ説得力を持つ文章で説明することができる。

（関心・意欲・態度）

4. 研究課題を独自に設定し、自立的に研究を進めるために、研究対象とする歴史的社会に関する先行研究を積極的に学び、独自の視点を打ち立てる意図と能力を有している。

史学専攻（博士後期課程）

史学専攻（博士後期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

（知識・技能）

1. 専攻しようとする歴史分野に関する高度な専門知識を有し、修士論文等執筆の経験があって歴史学の研究手法を十分に習得している。
2. 希望する歴史分野での研究で用いる史料の高度な読解力とそのための語学力を有している。

（思考・判断・表現）

3. 人類の過去の歴史的社会のあり方や様々な歴史現象に幅広い関心を有し、それについて自らの研究を通じて、論理的な文章で独創的な研究成果を公表することができる。

（関心・意欲・態度）

4. 研究対象とする歴史的社会に関する独自の研究課題を設定し、当該分野の先行研究に関する十分な知見を有し、独自の視点を打ち立て、独創的かつ独自の研究を進める意欲を持っている。

日本語日本文学専攻（博士前期課程）

日本語日本文学専攻（博士前期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

（知識・技能）

1. 卒業論文並びにそれに準じるレポートを作成し、研究テーマに関する基礎知識を修得して、入学後の研究展望を持っている。

（思考・判断・表現）

2. 公正な研究倫理に基づいて、先行研究を尊重し、自らの研究のオリジナリティを適切に判断できる。
3. 研究の学問的・社会的意義を自覚して、学会だけでなく、社会や世界に成果を発信することができる。

（関心・意欲・態度）

4. 論文や資料などを多様な情報ツールを利用して真摯に収集できる。
5. 最新の研究動向を鋭敏に把握し、計画的に研究を進めることができる。

日本語日本文学専攻（博士後期課程）

日本語日本文学専攻（博士後期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

（知識・技能）

1. 前期課程を修了し、作成した修士論文が学会で一定の評価が得られるレベルに達している。

（思考・判断・表現）

2. 公正な研究倫理に基づいて、先行研究を尊重し、自らの研究のオリジナリティを適切に判断できる。
3. 研究の学問的・社会的意義を自覚して、学会だけでなく、社会や世界に成果を発信することができる。
4. 研究の意義、発展性を適切に把握し、表現することができる。

（関心・意欲・態度）

5. 様々な公的学会に積極的に参加し、継続的に大会・例会等で発表する他、機関誌に論文を投稿する姿勢がある。

英語英米文学専攻（博士前期課程）

英語英米文学専攻（博士前期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

（知識・技能）

1. 卒業論文執筆や学部授業科目の履修を通じて英語圏の言語・文化（文学も含む）・社会全般に関して基礎的な知識を広く有している。
2. 抽象的な話題についても英語で理解でき、自らの考えを説明できる英語能力を習得している。

（思考・判断・表現）

3. 研究課題を主体的に見出し、具体的データに基づいて論理的に考察することができる。

（関心・意欲・態度）

4. 修士論文につながる論理的な攻勢を持つ研究計画を示すことができる。

英語英米文学専攻（博士後期課程）

英語英米文学専攻（博士後期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

（知識・技能）

1. 自らの専門領域について高度な知識を有し、英語資料を正確かつ批判的に理解・分析でき、学術的内容を正確に論じることができる。

（思考・判断・表現）

2. 研究課題を主体的に見出し、論理的かつ科学的に分析し、説得的な表現で論文を執筆できる。

（関心・意欲・態度）

3. 博士論文につながる独創性のある研究計画を具体的に示すことができる。

ドイツ語ドイツ文学専攻（博士前期課程）

ドイツ語ドイツ文学専攻（博士前期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

（知識・技能）

1. 卒業論文執筆や学部授業科目の履修を通じてドイツ語圏の言語・文化（文学も含む）・社会全般に関して

基礎的な知識を広く有している。

2. 抽象的な話題についてもドイツ語で理解でき、自らの考えを説明できるドイツ語力（ヨーロッパ言語共通参照枠 B1 に相当）を習得している。

（思考・判断・表現）

3. 修士論文につながる独創性のある研究計画を説得的かつ具体的に説明することができる。

（関心・意欲・態度）

4. 現代における文化・社会の諸問題に深い関心を持ち、関連文献を積極的に収集し、自身の考えを発信する能力の習得に強い意欲を持っている。

ドイツ語ドイツ文学専攻（博士後期課程）

ドイツ語ドイツ文学専攻（博士後期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

（知識・技能）

1. 自らの専門領域について高度な知識を有し、ドイツ語資料を正確かつ批判的に理解・分析でき、学術的内容を正確に論じることができる。
2. 自身の研究対象と研究方法についてドイツ語で説明できるドイツ語力（ヨーロッパ言語共通参照枠 B2 に相当）を習得している。

（思考・判断・表現）

3. 博士論文につながる独創性のある研究計画を確実な専門知識に基づいて具体的に説明することができる。

（関心・意欲・態度）

4. 自身の研究対象と研究方法について、先端的研究の成果を積極的に取り入れる能力の習得に強い意欲を持っている。

フランス文学専攻（博士前期課程）

フランス文学専攻（博士前期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

（知識・技能）

1. 卒業論文執筆や学部授業科目の履修を通じて、フランス語圏の言語・文化（文学も含む）・社会全般に関する基礎的な知識を広く有している。
2. 抽象的な話題についてもフランス語で理解でき、自らの考えを説明できるフランス語力（ヨーロッパ言語共通参照枠 B1 に相当）を習得している。

（思考・判断・表現）

3. 研究課題を主体的に見出し考察することができる。

（関心・意欲・態度）

4. 自分の専門分野のみならず、広く文化・社会の諸問題に深い関心を持ち、関連文献の収集を通して自分独自の考えを形成できる能力の習得に強い意欲を持っている。

フランス文学専攻（博士後期課程）

フランス文学専攻（博士後期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

（知識・技能）

1. 自らの専門領域について高度な知識を有し、フランス語資料を正確かつ批判的に理解・分析でき、学術的内容を正確に論じることができる。
2. 自身の研究対象と研究方法についてフランス語で説明できるフランス語力（ヨーロッパ言語共通参照枠 B2 に相当）を習得している。
(思考・判断・表現)
3. 博士論文につながる独創性のある研究計画を確実な専門知識に基づいて具体的に説明することができる。
(関心・意欲・態度)
4. 自身の研究対象と研究方法について、先端的研究の成果を積極的に取り入れる能力の習得に強い意欲を持っている。

心理学専攻（博士前期課程）

心理学専攻（博士前期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 現代の人間理解と社会問題の解決に寄与する心理学の基本的な知識を獲得している。
2. 心理現象や社会現象を客観的に捉えるための基礎となる研究法・測定法・データ解析法を修得している。
(思考・判断・表現)
3. 人間の心理に対するアプローチの多様性を理解し、自らも複数の観点から人間の心理を捉えることができる。
4. 心の主観的な性質と個性を十分に認識しつつ、同時にその普遍的な性質に基づいて客観的に把握するという心理学的な視点を獲得している。
(関心・意欲・態度)
5. 人間とその心に向けられた自分の問題意識を認識するとともに、その背後にある自分の人間観や価値観を相対化できている。
6. 自分で問題を設定し、適切な方法を選択して研究を実施し、自らの主張を論理的かつ説得力のある仕方で展開できる。

心理学専攻（博士後期課程）

心理学専攻（博士後期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 現代の人間理解と社会問題の解決に寄与する専門的な心理学の知識を獲得している。
2. 複雑な心理現象や社会現象を客観的に捉えるための実践的な研究法・測定法・データ解析法を修得している。
(思考・判断・表現)
3. 人間の心理の個性と普遍性を常に意識しながら、自分の研究テーマを複数の観点から捉えることができる。
4. 実証的なデータに基づいて、論理的な議論を通じて、説得力のある主張を構築することができる。
(関心・意欲・態度)
5. 社会で生じている問題に関心を持ち、自分の問題意識と結びつけ解決していこうとする意欲を持っている。

臨床心理学専攻（博士前期課程）

臨床心理学専攻（博士前期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

（知識・技能）

1. 臨床心理学専攻における実践・研究に必要な心理学の知識を有している。
2. 海外の専門文献の講読と読解に必要な英語の語学力を有している。

（思考・判断・表現）

3. 人間に対する共感的な興味・関心と倫理的な配慮を持ち、社会貢献への志向を有している。
4. 臨床心理学にとって必要な個別的な素材から普遍的な論理を構築することができる。

（関心・意欲・態度）

5. 臨床心理学の研究に意欲的に取り組み、人間的な共感と倫理観に基づきながら研究及び実践を遂行しようとする態度を有している。

臨床心理学専攻（博士後期課程）

臨床心理学専攻（博士後期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

（知識・技能）

1. 臨床心理学専攻における実践・研究に必要な心理学の知識を十分に自分のものにしており、使いこなすことができる。
2. 海外の専門文献の講読と読解に必要な複数の語学力を有している。

（思考・判断・表現）

3. 人間に対する共感的な興味・関心と倫理的な配慮を持ち、社会貢献への志向を有している。
4. 臨床心理学にとって必要な個別的な素材から普遍的な論理を構築ことができ、それを説得力をもった論述と構成をもって提供することができる。

（関心・意欲・態度）

5. 臨床心理学の研究に意欲的に取り組み、人間的な共感と倫理観に基づきながら研究及び実践を高度なレベルで遂行しようとする態度を有している。

教育学専攻（博士前期課程）

教育学専攻（博士前期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

（知識・技能）

1. 教育学・教育実践に関する基礎的・基本的な知識を持ち、教育研究の活動を遂行できる。

（思考・判断・表現）

2. 教育学・教育実践に関する諸課題について思考し、多様な考え方からの確に方策を判断し、自らの考えを明確に表現できる。

（関心・意欲・態度）

3. 教育研究に意欲的に取り組み、他者と連帯しながら研究を遂行しようとする態度を有している。

教育学専攻（博士後期課程）

教育学専攻（博士後期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を

通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 教育学・教育実践に関する高度の知識を持ち、教育研究の活動を遂行できる。

(思考・判断・表現)

2. 教育学・教育実践に関する諸課題について深く思考し、多様な考え方からの確に方策を判断し、自らの考えを明確かつ論理的に表現できる。

(関心・意欲・態度)

3. 教育研究に意欲的かつ効果的に取り組み、他者と連帯しながら研究を遂行しようとする態度を有している。

アーカイブズ学専攻（博士前期課程）

アーカイブズ学専攻（博士前期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. デジタル形式か紙文書かを問わず、記録・アーカイブズに関する評価選別・収集、保存、利用、普及に関する基礎的知識を有している。

(思考・判断・表現)

2. 記録・アーカイブズに関する諸問題に関心を持ち、それを具体的な研究課題として、基礎的作業や調査研究に組み込み、その成果を適切に発表することができる。

(関心・意欲・態度)

3. 記録・アーカイブズと人間活動の関係を探究し、保存・利用等についての基本的なプログラムを設計し、運用することを目指すため、これに関する社会的な使命を自覚して研究・実践に取り組む意欲がある。

アーカイブズ学専攻（博士後期課程）

アーカイブズ学専攻（博士後期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. デジタル形式か紙文書かを問わず、記録・アーカイブズに関する評価選別・収集、保存、利用、普及に関する専門的知識を有している。

(思考・判断・表現)

2. 記録・アーカイブズに関する諸問題に専門的に取り組み、具体的な調査研究を通して実証的に解決に導くことを目指すため、資料の完全性を保護して証拠性を確保すること等を定めた国際アーカイブズ会議 (International Council on Archives : ICA) 「アーキビストの倫理綱領」を踏まえて、研究活動を行うことができる。

(関心・意欲・態度)

3. 記録・アーカイブズと人間活動の関係を探究し、保存・利用等についての専門的なプログラムを設計し、運用することを目指すため、これに関する学術的及び社会的な使命を自覚して、研究・実践に取り組む意欲がある。

身体表象文化学専攻（博士前期課程）

身体表象文化学専攻（博士前期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選

抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 舞台芸術、映像芸術、マンガ・アニメーション芸術、ジェンダー文化論の4つの分野のうち1分野に関して、専門的な知識を身につけている。

(思考・判断・表現)

2. 専門的な知識と広い文化的関心とをバランスよく示す文章を書くことができる。

(関心・意欲・態度)

3. 大学の学部におけるリベラル・アーツ的な広い教養と、文化全般に対する自発的な関心を持っている。

身体表象文化学専攻（博士後期課程）

身体表象文化学専攻（博士後期課程）では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 舞台芸術、映像芸術、マンガ・アニメーション芸術、ジェンダー文化論の4つの分野のうち1分野に関して、専門的な知識を身につけるとともに、自身の研究主題とその周辺の知的領域について深い思考を有している。

(思考・判断・表現)

2. 専門的な知識と広い文化的関心とをバランスよく示す文章作成能力を持ち、適宜、必要十分な長さの論文を書くことができる。
3. 扱う主題に関して従来の諸研究とは異なった視野を開く独創性を持っている。

(関心・意欲・態度)

4. 専門的問題の特殊性に自足することなく、自身の論題を普遍的な文化の問題として同時代の読み手に向けて発信する開かれた精神的姿勢を持っている。

【博士前期課程】

博士前期課程（秋期入学試験）

① 募集人員

研究科	専攻	募集人員
人文科学研究科	哲学専攻	約4名
	美術史学専攻	約5名
	史学専攻	約8名
	日本語日本文学専攻	約10名
	英語英米文学専攻	約5名
	ドイツ語ドイツ文学専攻	約2名
	フランス文学専攻	約2名
	心理学専攻	約4名
	臨床心理学専攻	約9名
	教育学専攻	約10名
	アーカイブズ学専攻	約8名
	身体表象文化学専攻	約5名

② 出願資格

- 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者又は2025年3月31日までに卒業見込みの者
- 学校教育法施行規則第155条第1項の規定により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者で、次の(1)から(9)までのいずれかに該当する者
 - 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者又は2025年3月31日までに授与される見込みの者
 - 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は2025年3月31日までに修了見込みの者
 - 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者又は2025年3月31日までに修了見込みの者
 - 日本国内において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は2025年3月31日までに修了見込みの者
 - 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって（4）の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者又は2025年3月31日までに授与される見込みの者
 - 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は2025年3月31日までに修了見込みの者
 - 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
 - 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの

(9) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、入学時に22歳に達するもの

※最終学歴が中国の大学の専科（3年制）の場合には、出願資格がありません。ただし、専科を卒業後に本科を卒業して16年の学校教育を修了した場合は、出願を認めます。

[注意事項]

- 上記出願資格2(3)、(5)、(8)又は(9)で出願しようとする者については、あらかじめ出願資格の認定審査を行いますので、下記の期間に本学アドミッションセンターに「出願資格審査申請書」と併せ、入学志願票、成績証明書、卒業証明書（外国の大学を卒業した場合は、取得学位（学士）が記載されているもの）のコピーを郵送にて提出してください。

出願資格認定審査受付期間 2024年7月16日（火）～7月18日（木）

本申請書は、本学入試情報ホームページよりダウンロードすることができます。

<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/qualification/>

- 上記の有資格者で、現在就業中の者が入学後に職業を継続することは、学業に差支えない限り、これを妨げません。

③ 選考方法

入学者の選考は、筆記試験、口述試験、出身校の学業成績によって決定します。

④ 試験日及び試験科目

筆記試験 9月21日（土）－西2号館で実施

口述試験 9月21日（土）又は22日（日）－西2号館、北2号館、北1号館で実施

9月21日（土）に口述試験が終了した場合、9月22日（日）の口述試験はありません。

口述試験の日時は、受験票発送時にお知らせします。遠距離受験等の事情には配慮します。

専攻	月 日	9月21日（土）				9月22日（日）
哲 学 専 攻	9：00～10：00	10：20～12：20	13：10～14：10	15：00～	10：00～	
	哲学史及び思想史	外国語原書読解 (注1) 英・独・仏・古典 ギリシア語・古典 ラテン語・漢文・ (日)のうちから 2科目	論 文	口 述 試 験	口 述 試 験	
美 術 史 学 専 攻	9：00～10：00	10：20～11：50	13：10～14：10	15：00～	10：00～	
	美術史	外国語原書読解 (注1) 英語(60分)及び 独・仏・伊・漢文・ (日)のうちから1 科目(30分)	論 文	口 述 試 験	口 述 試 験	
史 学 専 攻	9：00～10：00	10：20～12：20	14：00～			
	外国語(注4) 英・独・仏・中・ (日)のうちから 1言語	日本史・東洋史・ 西洋史(以上のう ちから1科目)	口 述 試 験			

専攻	9月21日(土)				9月22日(日)
日本語 日本文学専攻	9:00~10:00	10:20~12:20	13:10~		
	外国語(注4) 英・独・仏・中・ (日)のうちから 1言語	日本語学・日本文 学	口述試験		
英語英米 文学専攻	9:00~10:00	10:20~11:50	13:00~		
	英語	分野別基礎知識・ 論文(注5)	口述試験		
ドイツ語ドイツ 文学専攻	9:00~10:00	10:20~12:20	14:30~		
	外国語(注4) 英・仏のうちから 1言語	ドイツ語及び 専門知識	口述試験		
フランス 文学専攻	9:00~10:00	10:20~12:20	13:10~		
	外国語(注4) 英・独のうちから 1言語	仏文学・仏語学・ 仏文読解	口述試験		
心理学専攻	9:00~10:00	10:20~12:20	13:30~		
	外国語(注4) 英・独・仏のう ちから1言語	心 理 学	口述試験		
臨床心理学専攻	9:00~10:00	10:20~12:20	13:10~14:10	15:00~	
	外国語(注4) 英・独・仏のう ちから1言語	臨床心理学Ⅰ	臨床心理学Ⅱ	口述試験	
教育学専攻	9:00~10:00	10:20~12:20	13:10~14:10	15:00~	
	教育学専門Ⅰ (基礎知識)	教育学専門Ⅱ (小論文)	外国語原書読解 (注2) 英・(日)のう ちから1言語	口述試験	
アーカイブズ学 専攻	9:00~10:00	10:20~12:20			10:00~
	外国語(注4) 英・独・仏・中・ (日)のうちから 1言語	アーカイブズ学に 関する基本知識・ 論文			口述試験
身体表象文化学 専攻	9:00~10:00	10:20~12:20			10:00~
	外国語(注4) 英・独・仏のう ちから1言語	選択した領域に関 する論文(注6)			口述試験

※外国人受験生(外国籍を有し、外国所在の外国の高等学校を卒業又は修了した者)の外国語原書読解・外国語試験について

●外国人受験生は、外国語原書読解・外国語試験として、母語を選ぶことはできません。

●哲学専攻・美術史学専攻・史学専攻・日本語日本文学専攻・教育学専攻・アーカイブズ学専攻を志望する外国人受験生は、外国語原書読解・外国語試験として日本語を選ぶことができます。

注1. 哲学専攻の外国語原書読解については、選択した2科目の辞書をそれぞれ1冊、また美術史学専攻の外国語原書読解については、英語及び選択した1科目の辞書をそれぞれ1冊、持ち込むことができます(電子辞書は不可)。なお、辞書の貸与は一切しません。

2. 学校教育法の定める学校で教職経験等が通算3年以上、又は児童福祉法に定める児童福祉に関わる保育士等の業務経験が通算3年以上(いずれも非常勤を含む、通算可)の者は、辞書を持ち込むことができます。(電子辞書、携帯電話は不可)。なお、辞書の貸与は一切しません。この条件で辞書持ち込みを希望する者は、出願時に履歴書(所定の書式)を添付して資格の判定を申請してください。

- 上記1.の哲学専攻・美術史学専攻の外国語原書読解以外の全ての科目については、辞書の使用を認めません。ただし、上記2.において辞書の持ち込みを許可された場合は、辞書の使用を認めます。
- ドイツ語、フランス語の試験は、それぞれドイツ語技能検定試験3級、実用フランス語技能検定試験3級程度の知識を前提とします。
- i 英語圏の文学・文化、ii 英語学の2分野から1つを選択します。なお、iの「英語圏」は広い地域にわたるため、設問中から選択し解答します。iiにおいても、設問中から選択し解答します。
- 選択する領域は、i 舞台芸術、ii 映像芸術、iii マンガ・アニメーション芸術、iv ジェンダー文化論のいずれか1つとします。

[受験上の注意]

- 試験当日は、必ず受験票を持参してください。
- 受験票を紛失した場合には、試験開始10分前までに試験本部に申し出てください。
- 試験開始後20分を経過した場合には入室を認めません。
- 公共交通機関の遅延により間に合わなかった場合には、該当の公共交通機関の発行した遅延証明書を持って試験本部に申し出てください。
- 試験時間中、机の上に置けるものは、鉛筆・シャープペンシル・ボールペン（いずれも黒又は青のみ）・消しゴム・時計・受験票のみです。携帯電話等の通信機器を時計として使用することは禁止します。
- 携帯電話・スマートフォン・スマートウォッチ等の通信機器は、試験室に入る前に電源を切っておくとともに、アラーム機能を解除しておいてください。携帯電話・スマートフォン・スマートウォッチ等の通信機器を時計の代用として使用することは一切認めません。携帯電話・時計等の電子機器が鳴動した場合には、監督者が受験者本人の了承を得ずに該当物（鞆等に入っている場合は鞆ごと）を試験室外に持ち出し、試験本部で試験終了まで保管します。
- 試験室内での撮影・録画・録音を禁止します。
- 試験科目のいずれかひとつでも欠席した場合は、不合格となります。

⑤ 出願手続

- 出願期間 2024年8月15日（木）～8月19日（月）
- 受付時間 平日：9：00～16：30、土曜：9：00～12：00
- 出願方法

出願者は、入学検定料35,000円を振込のうえ（「5. 入学検定料について」参照）、出願書類（「4. 出願書類」参照）を一括して、本学アドミッションセンターに提出してください。

郵送の場合は、簡易書留（かつ速達扱い）で本学アドミッションセンター宛に、8月19日（月）までに必着で送付してください。

窓口提出の場合は、出願期間内にアドミッションセンター窓口まで持参してください。※上記受付時間外の提出不可。

- ①出願書類は、各自用意した封筒（角形2号）の中に入れ、封筒の表面に所定の出願封筒貼付用紙を貼付して提出してください。
 - ②論文（卒業論文）は、試験終了後返送しますので、返送先の住所氏名を明記した封筒に入れて①に同封してください。
 - ③②が各自用意した封筒（角形2号）に入りきらない場合は、①と②を大きな封筒に入れて提出してください。
- 出願書類
本学の卒業生及び卒業見込者は、出願時に（5）の書類を必要としません。

(1) 入学志願票（本学所定の用紙、A4 サイズ）

※入学志願票に記入する「希望する指導教員名」については、45 頁以降の「人文科学研究科の概要」等を参照してください。

(2) 写真貼付票（写真 1 枚）・受験票（本学所定の用紙、A4 サイズ）

※写真 1 枚（3 か月以内に撮影したもので、アプリ等で画像（顔等）を加工しておらず、受験時に本人と確認できるもの。縦 4cm × 横 3cm。写真貼付票に貼付してください）

※受験票には、受験者の住所・氏名を記入してください。出願書類の内容を確認し次第、後日受験票を送付します。この本学からの受験票の発送をもちまして、出願書類の受理通知となります。

なお、出願書類を提出してから 9 月 13 日（金）までに受験票が到着しない場合は、必ず本学アドミッションセンターまで問合せください。

(3) 成績証明書（学部）

※和文又は英文以外の場合は、和訳又は英訳し、翻訳された内容が原本と相違ないことの証明を大使館等で受けて提出してください（原本も必ず提出してください）。

(4) 入学後の研究計画書（本学所定の用紙。史学専攻については専攻所定の用紙、A4 サイズ、HP よりダウンロード）

(5) 卒業証明書又は卒業見込証明書（学部）

※外国の大学を卒業した場合は、取得学位（学士）が記載されているものを提出してください。

※和文又は英文以外の場合は、和訳又は英訳し、翻訳された内容が原本と相違ないことの証明を大使館等で受けて提出してください（原本も必ず提出してください）。

(6) 外国人志願者の場合は①住民票（居住する地方公共団体が発行したもの）、又は②パスポートのコピー、のいずれか

(7) 提出書類記載の氏名が婚姻等により現在の氏名と異なる場合は、同一人物であることを証明する公的書類（戸籍抄本等）

(8) 入学検定料振込金受取書（提出用）

※入学検定料振込依頼票の依頼人欄のコードには『30』と記入してください。

(9) 論文（卒業論文）〔本人宛名明記の封筒に入れてください（切手の貼付不要）。口述試験後返却します。〕

i) 哲学専攻、美術史学専攻、英語英米文学専攻、フランス文学専攻、心理学専攻、臨床心理学専攻、アーカイブズ学専攻、身体表象文化学専攻については、論文（卒業論文又はそれに代わる論文）がある場合には、論文又はその写し 1 部を提出してください。

ii) 史学専攻、日本語日本文学専攻、ドイツ語ドイツ文学専攻、教育学専攻については、論文の提出を必要としません。

	哲	美	史	日	英	ド	フ	心	臨	教	ア	身
i) あれば提出	○	○			○		○	○	○		○	○
ii) 不要			○	○		○				○		

※論文は、日本語又は英語で書かれたものを提出してください。

5. 入学検定料について（35,000 円、銀行振込期間：8 月 2 日（金）～8 月 19 日（月））

イ. 本学所定の振込依頼書を使用し、銀行等より電信扱いで振込期間内に振り込んでください。期間外は取り扱いません。なお、りそな銀行本・支店からの場合、手数料は無料です。また、ゆうちょ銀行及び郵便局からの払込みはできません（現金自動預払機〔ATM〕、インターネットによる振込は使用しないでください）。

ロ. 一度提出した書類及び納入した入学検定料は、原則として返還しません。ただし、「入学検定料返還の対象となる理由」のいずれかのケースに該当し、かつ「入学検定料の返還手続」に則り、検定料返還願

が受理された場合は、入学検定料を返還いたします（43頁参照）。この場合、返還には時間がかかりますので、あらかじめご承知おきください。

また、振込手数料については、返還することができません。

- ハ. 出願者が日本国内に居住しておらず日本国外から出願する場合には、銀行からの外国送金により入学検定料を振り込んでください。42頁「外国送金による入学検定料の振込について」の内容をよく読み、期限に余裕をもって手続を行ってください。なお、外国送金した際に銀行から受け取る外国送金依頼書「本人控」のスキャンデータ（PDF）を本学アドミッションセンターにメールで送信するとともに、外国送金依頼書「本人控」のコピーを出願書類と一緒に提出してください。

また、受験にあたっての渡航にあたり「受験許可証」が必要な場合も本学アドミッションセンターにご相談ください。

[注意事項]

(1) 受験特別配慮について

身体機能の障がいにより、受験及び就学に際して特別な配慮を必要とする場合は、**7月18日（木）**までに必ず本学アドミッションセンターに問合せてください。

(2) 日本国外からの出願について

出願期間前までに、必ず本学アドミッションセンターにご相談ください。

(3) 出願書類について

- ・ 出願手続後は、いかなる理由があっても、出願書類に記載した事項の一切の変更は認めません。
- ・ 出願手続時提出書類（パスポートを除く）は、原本での提出を必須とします。

なお、原本が1部しかない等の理由で提出できない場合は、下記 a、b いずれかの方法によって原本証明をしたコピーの提出を認めます。

- a. 原本を在籍大学等に持参し、コピーを取ってもらい、コピーの内容が原本と相違ないことの証明を受ける（証明の際は、証明日・証明者名を明記のうえ、証明機関の印を押印）。
- b. 原本を本学アドミッションセンターに持参し、アドミッションセンター職員がコピーを取り、コピーの内容が原本と相違ないことの証明を受ける（本学アドミッションセンターの証明印を押印）。

(4) 健康診断書について

出願にあたって健康診断書の提出は必要としません。ただし、入学後に本学で実施する健康診断は、必ず受けてください。

⑥ 合格発表

2024年9月27日（金）10:00

1. 本学入試情報ホームページ（<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/result/>）に合格者の受験番号一覧を掲載します。また、合格者には、併せて「入学手続書類」を速達郵便で送付します。
※発表日を含め3日経っても未着の場合は、本学アドミッションセンターまで必ず問合せってください。
2. 可否に関する問合せには、一切応じません。

⑦ 入学手続

1. 入学手続締切日 2024年10月11日（金）締切日消印有効
2. 入学手続方法

入学手続方法の詳細については、合格者に送付する「入学手続要項」に従ってください。

合格者は、入学手続締切日までに入学金及び授業料その他の納付金を、原則として一括納入（銀行振込）した後、「令和7（2025）年度学習院大学入学手続書類」を郵送（締切日消印有効）して入学手続を完了してください。入学手続締切日までに入学手続を完了しない者は、入学資格を失います。

ただし、入学金以外の授業料その他の納付金の納入は、2025年3月7日（金）まで延納を認めています。

3. 入学手続時納付金

2025年度入学者の納付金は、現在未定のため、入学手続要項に記載いたします。なお、参考までに2024年度入学者の納付金を37頁に掲載します。

4. 卒業証明書

大学を卒業（修了）見込で受験した者（本学含む）は、卒業後、「卒業証明書」を2025年3月31日（月）までに本学アドミッションセンター宛に郵送してください。その際、下記の内容を朱書してください。

卒業証明書の右上の余白に、入学研究科・専攻・カナ氏名を明記してください（大学で封がされている場合は、開封して記入してください。厳封の必要はありません）。

5. 入学辞退

本学への入学手続を行った後、入学辞退を希望し、2025年3月31日（月）16:00までに、本学アドミッションセンターに申し出た者に対しては、入学金を除く納入済みの入学手続時納付金（授業料その他の納付金）を返還します。

[注意事項]

入学手続後は、提出した書類の返却には一切応じません。

8 入学時期

2025年4月1日（火）

ただし、出願に際し、出願資格が卒業（修了）見込の資格で受験し、合格した者が、2025年3月31日（月）までに、資格を取得（卒業・学位など）できなかった場合、入学許可を取り消します。

奨学金・研究費

人文科学研究科特別研究費について

人文科学研究科に在籍する大学院生の研究を支援するため、博士前期課程においては5万円、博士後期課程においては20万円を申請者全員に研究費として給付しています。

臨床心理学専攻

従来どおり臨床心理士養成指定大学院として必要単位数を履修することで、臨床心理士受験資格が得られます（臨床心理士受験においては、学部での履修科目は関係ありません）。

公認心理師受験資格対応について

心理学分野の国家資格である公認心理師法が2017年9月に施行されました。

それに伴い学習院大学人文科学研究科臨床心理学専攻博士前期課程では、2018年度から大学院における公認心理師受験資格を満たす10科目を開設しており、公認心理師受験資格カリキュラムにも対応しています。

なお、公認心理師受験資格を得るためには、他に学部卒業時に所定の科目を履修していることが必要です。所定科目の履修状況については、出身大学に問合せください。

博士前期課程（春期入学試験）

① 募集人員

研究科	専攻	募集人員
人文科学研究科	哲学専攻	約6名
	美術史学専攻	約5名
	史学専攻	約7名
	日本語日本文学専攻	約10名
	英語英米文学専攻	約5名
	ドイツ語ドイツ文学専攻	約3名
	フランス文学専攻	約3名
	心理学専攻	約2名
	臨床心理学専攻	約3名
	教育学専攻	約10名
	アーカイブズ学専攻	約7名
	身体表象文化学専攻	約5名

② 出願資格

- 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者又は2025年3月31日までに卒業見込みの者
- 学校教育法施行規則第155条第1項の規定により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者で、次の(1)から(9)までのいずれかに該当する者
 - 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者又は2025年3月31日までに授与される見込みの者
 - 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は2025年3月31日までに修了見込みの者
 - 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者又は2025年3月31日までに修了見込みの者
 - 日本国内において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は2025年3月31日までに修了見込みの者
 - 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって(4)の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者又は2025年3月31日までに授与される見込みの者
 - 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は2025年3月31日までに修了見込みの者
 - 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
 - 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

(9) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、入学時に22歳に達するもの

※最終学歴が中国の大学の専科（3年制）の場合には、出願資格がありません。ただし、専科を卒業後に本科を卒業して16年の学校教育を修了した場合は、出願を認めます。

[注意事項]

- 上記出願資格2(3)、(5)、(8)又は(9)で出願しようとする者については、あらかじめ出願資格の認定審査を行いますので、下記の期間に本学アドミッションセンターに「出願資格審査申請書」と併せ、入学志願票、成績証明書、卒業証明書（外国の大学を卒業した場合は、取得学位（学士）が記載されているもの）のコピーを郵送にて提出してください。

出願資格認定審査受付期間 2024年11月27日（水）～11月29日（金）

本申請書は、本学入試情報ホームページよりダウンロードすることができます。

<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/qualification/>

- 上記の有資格者で、現在就業中の者が入学後に職業を継続することは、学業に差支えない限り、これを妨げません。

③ 選考方法

入学者の選考は、筆記試験、口述試験、出身校の学業成績によって決定します。

④ 試験日及び試験科目

筆記試験 2月17日（月）－西2号館で実施

口述試験 2月17日（月）又は18日（火）－西2号館、北2号館、北1号館で実施

2月17日（月）に口述試験が終了した場合、2月18日（火）の口述試験はありません。

口述試験の日時は、受験票発送時にお知らせします。遠距離受験等の事情には配慮します。

専攻	月 日	2月17日（月）				2月18日（火）
哲 学 専 攻	9：00～10：00	10：20～12：20	13：10～14：10	15：00～	10：00～	
	哲学史及び思想史	外国語原書読解 (注1) 英・独・仏・古典 ギリシア語・古典 ラテン語・漢文・ (日)のうちから 2科目	論 文	口 述 試 験	口 述 試 験	
美 術 史 学 専 攻	9：00～10：00	10：20～11：50	13：10～14：10	15：00～	10：00～	
	美術史	外国語原書読解 (注1) 英語(60分)及び 独・仏・伊・漢文・ (日)のうちから1 科目(30分)	論 文	口 述 試 験	口 述 試 験	
史 学 専 攻	9：00～10：00	10：20～12：20	14：00～			
	外国語(注4) 英・独・仏・中・ (日)のうちから 1言語	日本史・東洋史・ 西洋史(以上のう ちから1科目)	口 述 試 験			

専攻	2月17日(月)				2月18日(火)
日本語 日本文学専攻	9:00~10:00	10:30~			口述試験
	外国語(注4) 英・独・仏・中・ (日)のうちから 1言語				
英語英米 文学専攻	9:00~10:00	10:20~11:50	13:00~		口述試験
	英語	分野別基礎知識・ 論文(注5)			
ドイツ語ドイツ 文学専攻	9:00~10:00	10:20~12:20	14:30~		口述試験
	外国語(注4) 英・仏のうちから 1言語	ドイツ語及び専門 知識			
フランス 文学専攻	9:00~10:00	10:20~12:20	13:10~		口述試験
	外国語(注4) 英・独のうちから 1言語	仏文学・仏語学・ 仏文読解			
心理学専攻	9:00~10:00	10:20~12:20	13:30~		口述試験
	外国語(注4) 英・独・仏のう ちから1言語	心 理 学			
臨床心理学専攻	9:00~10:00	10:20~12:20	13:10~14:10	15:00~	口述試験
	外国語(注4) 英・独・仏のう ちから1言語	臨床心理学Ⅰ	臨床心理学Ⅱ		
教育学専攻	9:00~10:00	10:20~12:20	13:10~14:10	15:00~	口述試験
	教育学専門Ⅰ (基礎知識)	教育学専門Ⅱ (小論文)	外国語原書読解 (注2) 英・(日)のう ちから1言語		
アーカイブズ学 専攻	9:00~10:00	10:20~12:20			10:00~
	外国語(注4) 英・独・仏・中・ (日)のうちから 1言語	アーカイブズ学に 関する基本知識・ 論文			口述試験
身体表象文化学 専攻	9:00~10:00	10:20~12:20			10:00~
	外国語(注4) 英・独・仏のう ちから1言語	選択した領域に関 する論文(注6)			口述試験

※外国人受験生(外国籍を有し、外国所在の外国の高等学校を卒業又は修了した者)の外国語原書読解・外国語試験について

●外国人受験生は、外国語原書読解・外国語試験として、母語を選ぶことはできません。

●哲学専攻・美術史学専攻・史学専攻・日本語日本文学専攻・教育学専攻・アーカイブズ学専攻を志望する外国人受験生は、外国語原書読解・外国語試験として日本語を選ぶことができます。

注1. 哲学専攻の外国語原書読解については、選択した2科目の辞書をそれぞれ1冊、また美術史学専攻の外国語原書読解については、英語及び選択した1科目の辞書をそれぞれ1冊、持ち込むことができます(電子辞書は不可)。なお、辞書の貸与は一切しません。

2. 学校教育法の定める学校で教職経験等が通算3年以上、又は児童福祉法に定める児童福祉に関わる保育士等の業務経験が通算3年以上(いずれも非常勤を含む、通算可)の者は、辞書を持ち込むことができます。(電子辞書、携帯電話は不可)。なお、辞書の貸与は一切しません。この条件で辞書持ち込みを希望する者は、出願時に履歴書(所定の書式)を添付して資格の判定を申請してください。

- 上記1.の哲学専攻・美術史学専攻の外国語原書読解以外の全ての科目については、辞書の使用を認めません。ただし、上記2.において辞書の持ち込みを許可された場合は、辞書の使用を認めます。
- ドイツ語、フランス語の試験は、それぞれドイツ語技能検定試験3級、実用フランス語技能検定試験3級程度の知識を前提とします。
- i 英語圏の文学・文化、ii 英語学の2分野から1つを選択します。なお、iの「英語圏」は広い地域にわたるため、設問中から選択し解答します。iiにおいても、設問中から選択し解答します。
- 選択する領域は、i 舞台芸術、ii 映像芸術、iii マンガ・アニメーション芸術、iv ジェンダー文化論のいずれか1つとします。

[受験上の注意]

- 試験当日は、必ず受験票を持参してください。
- 受験票を紛失した場合には、試験開始10分前までに試験本部に申し出てください。
- 試験開始後20分を経過した場合には入室を認めません。
- 公共交通機関の遅延により間に合わなかった場合には、該当の公共交通機関の発行した遅延証明書を持って試験本部に申し出てください。
- 試験時間中、机の上に置けるものは、鉛筆・シャープペンシル・ボールペン（いずれも黒又は青のみ）・消しゴム・時計・受験票のみです。携帯電話等の通信機器を時計として使用することは禁止します。
- 携帯電話・スマートフォン・スマートウォッチ等の通信機器は、試験室に入る前に電源を切っておくとともに、アラーム機能を解除しておいてください。携帯電話・スマートフォン・スマートウォッチ等の通信機器を時計の代用として使用することは一切認めません。携帯電話・時計等の電子機器が鳴動した場合には、監督者が受験者本人の了承を得ずに該当物（鞆等に入っている場合は鞆ごと）を試験室外に持ち出し、試験本部で試験終了まで保管します。
- 試験室内での撮影・録画・録音を禁止します。
- 試験科目のいずれかひとつでも欠席した場合は、不合格となります。

⑤ 出願手続

- 出願期間 2025年1月14日（火）～1月16日（木）
- 受付時間 9:00～16:30
- 出願方法

出願者は、入学検定料35,000円を振込のうえ（「5. 入学検定料について」参照）、出願書類（「4. 出願書類」参照）を一括して、本学アドミッションセンターに提出してください。

郵送の場合は、簡易書留（かつ速達扱い）で本学アドミッションセンター宛に、1月~~9~~¹⁶日（木）までに必着で送付してください。

窓口提出の場合は、出願期間内にアドミッションセンター窓口まで持参してください。※上記受付時間外の提出不可。

- ①出願書類は、各自用意した封筒（角形2号）の中に入れ、封筒の表面に所定の出願封筒貼付用紙を貼付して提出してください。
 - ②論文（卒業論文）は、試験終了後返送しますので、返送先の住所氏名を明記した封筒に入れて①に同封してください。
 - ③②が各自用意した封筒（角形2号）に入りきらない場合は、①と②を大きな封筒に入れて提出してください。
- 出願書類
本学の卒業生及び卒業見込者は、出願時に（5）の書類を必要としません。

(1) 入学志願票（本学所定の用紙、A4 サイズ）

※入学志願票に記入する「希望する指導教員名」については、45 頁以降の「人文科学研究科の概要」等を参照してください。

(2) 写真貼付票（写真 1 枚）・受験票（本学所定の用紙、A4 サイズ）

※写真 1 枚（3 か月以内に撮影したもので、アプリ等で画像（顔等）を加工しておらず、受験時に本人と確認できるもの。縦 4cm × 横 3cm。写真貼付票に貼付してください）

※受験票には、受験者の住所・氏名を記入してください。出願書類の内容を確認し次第、後日受験票を送付します。この本学からの受験票の発送をもちまして、出願書類の受理通知となります。

なお、出願書類を提出してから 2 月 10 日（月）までに受験票が到着しない場合は、必ず本学アドミッションセンターまで問合せください。

(3) 成績証明書（学部）

※和文又は英文以外の場合は、和訳又は英訳し、翻訳された内容が原本と相違ないことの証明を大使館等で受けて提出してください（原本も必ず提出してください）。

(4) 入学後の研究計画書（本学所定の用紙、A4 サイズ、HP よりダウンロード）

(5) 卒業証明書又は卒業見込証明書（学部）

※外国の大学を卒業した場合は、取得学位（学士）が記載されているものを提出してください。

※和文又は英文以外の場合は、和訳又は英訳し、翻訳された内容が原本と相違ないことの証明を大使館等で受けて提出してください（原本も必ず提出してください）。

(6) 外国人志願者の場合は①住民票（居住する地方公共団体が発行したもの）、又は②パスポートのコピー、のいずれか

(7) 提出書類記載の氏名が婚姻等により現在の氏名と異なる場合は、同一人物であることを証明する公的書類（戸籍抄本等）

(8) 入学検定料振込金受取書（提出用）

※入学検定料振込依頼票の依頼人欄のコードには『30』と記入してください。

(9) 論文（卒業論文）〔本人宛名明記の封筒に入れてください（切手の貼付不要）。口述試験後返却します。〕

i) 哲学専攻、美術史学専攻、史学専攻については、論文（卒業論文又はそれに代わる論文）又はその写し 1 部を提出してください。出身大学で卒業論文を課されていない場合であっても、論文の提出は必要です。

ii) 日本語日本文学専攻については、論文（卒業論文又はそれに代わる 4000 字以上の論文）又はその写し 1 部を提出してください。出身大学で卒業論文を課されていない場合であっても、論文の提出は必要です。なお、卒業論文が大学院での研究テーマ（日本文学・日本語学・日本語教育・日本文化・言語学等）と大きく異なる場合（例えば、心理学や経済学）は、予定する研究テーマに即した内容の論文を、卒業論文に代わるものとして提出することが望まれます。

iii) 英語英米文学専攻、ドイツ語ドイツ文学専攻、フランス文学専攻、心理学専攻、臨床心理学専攻、アーカイブズ学専攻、身体表象文化学専攻については、論文（卒業論文又はそれに代わる論文）がある場合は、論文又はその写し 1 部を提出してください。

iv) 教育学専攻については、論文の提出を必要としません。

	哲	美	史	日	英	ド	フ	心	臨	教	ア	身
i) ii) 必須	○	○	○	○								
iii) あれば提出					○	○	○	○	○		○	○

※論文は、日本語又は英語で書かれたものを提出してください。

※本学卒業見込者で卒業論文を 12 月に提出した者は、改めて論文を提出する必要はありません。

ただし、本学卒業者又は卒業見込者であっても在籍する学科と異なる専攻に出願する場合には、上記の定めに従って論文（卒業論文又はそれに代わる論文）を提出する必要があります。

5. 入学検定料について（35,000 円、銀行振込期間：1月6日（月）～1月16日（木））

イ. 本学所定の振込依頼書を使用し、銀行等より電信扱いで振込期間内に振り込んでください。期間外は取り扱いません。なお、りそな銀行本・支店からの場合、手数料は無料です。また、ゆうちょ銀行及び郵便局からの払込みはできません。（現金自動預払機〔ATM〕、インターネットによる振込は使用しないでください）

ロ. 一度提出した書類及び納入した入学検定料は、原則として返還しません。ただし、「入学検定料返還の対象となる理由」のいずれかのケースに該当し、かつ「入学検定料の返還手続」に則り、検定料返還願が受理された場合は、入学検定料を返還いたします（43 頁参照）。この場合、返還には時間がかかりますので、あらかじめご承知おきください。

また、振込手数料については、返還することができません。

ハ. 出願者が日本国内に居住しておらず日本国外から出願する場合には、銀行からの外国送金により入学検定料を振り込んでください。42 頁「外国送金による入学検定料の振込について」の内容をよく読み、期限に余裕をもって手続を行ってください。なお、外国送金した際に銀行から受け取る外国送金依頼書「本人控」のスキャンデータ（PDF）を本学アドミッションセンターにメールで送信するとともに、外国送金依頼書「本人控」のコピーを出願書類と一緒に提出してください。

また、受験にあたっての渡航にあたり「受験許可証」が必要な場合も本学アドミッションセンターにご相談ください。

[注意事項]

(1) 受験特別配慮について

身体機能の障がいにより、受験及び就学に際して特別な配慮を必要とする場合は、**11月29日（金）**までに必ず本学アドミッションセンターに問合せてください。

(2) 日本国外からの出願について

出願期間前までに、必ず本学アドミッションセンターにご相談ください。

(3) 出願書類について

- ・ 出願手続後は、いかなる理由があっても、出願書類に記載した事項の一切の変更は認めません。
- ・ 出願手続時提出書類（パスポートを除く）は、原本での提出を必須とします。

なお、原本が1部しかない等の理由で提出できない場合は、下記 a、b いずれかの方法によって原本証明をしたコピーの提出を認めます。

- a. 原本を在籍大学等に持参し、コピーを取ってもらい、コピーの内容が原本と相違ないことの証明を受ける（証明の際は、証明日・証明者名を明記のうえ、証明機関の印を押印）。
- b. 原本を本学アドミッションセンターに持参し、アドミッションセンター職員がコピーを取り、コピーの内容が原本と相違ないことの証明を受ける（本学アドミッションセンターの証明印を押印）。

(4) 健康診断書について

出願にあたって健康診断書の提出は必要としません。ただし、入学後に本学で実施する健康診断は、必ず受けてください。

⑥ 合格発表

2025年2月21日（金）10:00

1. 本学入試情報ホームページ（<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/result/>）に合格者の受験番号一

覧を掲載します。また、合格者には、併せて「入学手続書類」を速達郵便で送付します。

※発表日を含め3日経っても未着の場合は、本学アドミッションセンターまで必ず問合せてください。

2. 可否に関する問合せには、一切応じません。

⑦ 入学手続

1. 入学手続締切日 2025年3月7日（金）締切日消印有効

2. 入学手続方法

入学手続方法の詳細については、合格者に送付する「入学手続要項」に従ってください。

合格者は、入学手続締切日までに入学金及び授業料その他の納付金を一括納入（銀行振込）した後、「令和7（2025）年度学習院大学入学手続書類」を郵送（締切日消印有効）して入学手続を完了してください。

入学手続締切日までに入学手続を完了しない者は、入学資格を失います。

3. 入学手続時納付金

2025年度入学者の納付金は、現在未定のため、入学手続要項に記載いたします。なお、参考までに2024年度入学者の納付金を37頁に掲載します。

4. 卒業証明書

大学を卒業（修了）見込で受験した者（本学含む）は、卒業後、「卒業証明書」を2025年3月31日（月）までに本学アドミッションセンター宛に郵送してください。その際、下記の内容を朱書してください。

卒業証明書の右上の余白に、入学研究科・専攻・カナ氏名を明記してください（大学で封がされている場合は、開封して記入してください。厳封の必要はありません）。

5. 入学辞退

本学への入学手続を行った後、入学辞退を希望し、2025年3月31日（月）16:00までに、本学アドミッションセンターに申し出た者に対しては、入学金を除く納入済みの入学手続時納付金（授業料その他の納付金）を返還します。

[注意事項]

入学手続後は、提出した書類の返却には一切応じません。

⑧ 入学時期

2025年4月1日（火）

ただし、出願に際し、出願資格が卒業（修了）見込の資格で受験し、合格した者が、2025年3月31日（月）までに、資格を取得（卒業・学位など）できなかった場合、入学許可を取り消します。

奨学金・研究費

人文科学研究科特別研究費について

人文科学研究科に在籍する大学院生の研究を支援するため、博士前期課程においては5万円、博士後期課程においては20万円を申請者全員に研究費として給付しています。

臨床心理士受験資格について

従来どおり臨床心理士養成指定大学院として必要単位数を履修することで、臨床心理士受験資格が得られます（臨床心理士受験においては、学部での履修科目は関係ありません）。

公認心理師受験資格対応について

心理学分野の国家資格である公認心理師法が平成29年9月に施行されました。

それに伴い学習院大学人文科学研究科臨床心理学専攻博士前期課程では、平成30年度から大学院における公認心理師受験資格を満たす10科目を開設しており、公認心理師受験資格カリキュラムにも対応しています。

なお、公認心理師受験資格を得るためには、本学臨床心理学専攻博士前期課程入学以前に、学部において所定の科目を履修し卒業していることが必要です。所定科目の履修状況については、出身大学に問合せください。

【博士後期課程】

博士後期課程

① 募集人員

研究科	専攻	募集人員
人文科学研究科	哲学専攻	約3名
	美術史学専攻	約3名
	史学専攻	約3名
	日本語日本文学専攻	約3名
	英語英米文学専攻	約3名
	ドイツ語ドイツ文学専攻	約2名
	フランス文学専攻	約2名
	心理学専攻	約2名
	臨床心理学専攻	約3名
	教育学専攻	約5名
	アーカイブズ学専攻	約3名
	身体表象文化学専攻	約3名

② 出願資格

1. 修士の学位若しくは専門職学位を有する者又は2025年3月31日までに授与される見込みのある者
2. 学校教育法施行規則第156条の規定により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者で、次の(1)～(7)のいずれかに該当する者
 - (1) 外国において、修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は2025年3月31日までに授与される見込みのある者
 - (2) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本国内において履修し、修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は2025年3月31日までに授与される見込みのある者
 - (3) 日本国内において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は2025年3月31日までに授与される見込みのある者
 - (4) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者又は2025年3月31日までに学位を授与される見込みのある者
 - (5) 外国の学校、(3)の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
 - (6) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
 - (7) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時に24歳に達するもの

[注意事項]

1. 上記出願資格2(2)、(4)、(5)又は(7)で出願しようとする者については、あらかじめ出願資格の認定審査を行いますので、次の期間に本学アドミッションセンターに「出願資格審査申請書」と併せ、入学志願票、成績証明書、修了証明書（外国の大学を卒業した場合は、取得学位（修士）が記載されているもの）

のコピーを郵送にて提出してください。

出願資格認定審査受付期間 2024年11月27日(水)～11月29日(金)

本申請書は、本学入試情報ホームページよりダウンロードすることができます。

<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/qualification/>

- 上記の有資格者で、現在就業中の者が入学後に職業を継続することは、学業に差支えない限り、これを妨げません。

③ 選考方法

入学者の選考は、筆記試験、口述試験、出身校の成績によって決定します。

④ 試験日及び試験科目

筆記試験 2月17日(月)ー西2号館で実施

口述試験 2月17日(月)又は18日(火)ー西2号館、北2号館、北1号館で実施

2月17日(月)に口述試験が終了した場合、2月18日(火)の口述試験はありません。

口述試験の日時は、受験票発送時にお知らせします。遠距離受験等の事情には配慮します。

専攻	月 日	2月17日(月)				2月18日(火)
哲学専攻	9:00～10:00	10:20～12:20	13:10～14:10	15:00～	10:00～	
	哲学史及び思想史	外国語原書読解(注1) 英・独・仏・古典ギリシア語・古典ラテン語・漢文・(日)のうちから2科目	論 文	口 述 試 験	口 述 試 験	
美術史学専攻	9:00～10:00	10:20～11:50	13:10～14:10	15:00～	10:00～	
	美術史	外国語原書読解(注1) 英語(60分)及び独・仏・伊・漢文・(日)のうちから1科目(30分)	論 文	口 述 試 験	口 述 試 験	
史学専攻	9:00～10:00	10:20～12:20	14:00～			
	外国語原書読解 英・独・仏・中・(日)のうちから1言語	論文(歴史学に関する)	口 述 試 験			
日本語 日本文学専攻	9:00～10:00	10:20～12:20	13:10～			
	外国語(注4) 英・独・仏・中・(日)のうちから1言語	日本語学・日本文学	口 述 試 験			
英語英米 文学専攻	9:00～10:00	10:20～11:50	13:00～			
	英語	論文(注5)	口 述 試 験			
ドイツ語ドイツ 文学専攻	9:00～10:00	10:20～12:20	14:30～			
	外国語(注4) 英・仏のうちから1言語	ドイツ語及び専門知識	口 述 試 験			

専攻	2月17日(月)			2月18日(火)
フランス文学専攻	9:00～10:00	10:20～12:20	13:10～	口述試験
	外国語(注4) 英・独のうちから1言語	仏文学・仏語学・ 仏文読解		
心理学専攻	9:00～10:00	10:20～12:20	15:00～	口述試験
	心理学	英語原書読解		
臨床心理学専攻	9:00～10:00	10:20～12:20	15:00～	口述試験
	臨床心理学	英語原書読解		
教育学専攻	9:00～10:00	10:20～12:20	14:00～	口述試験
	外国語原書読解 (注2) 英・(日)のうち から1言語	論文		
アーカイブズ学専攻	9:00～10:00	10:20～12:20		10:00～
	外国語原書読解 英・(日)のうち から1言語	アーカイブズ学に 関する専門知識・ 論文		口述試験
身体表象文化学専攻	9:00～10:00	10:20～12:20		10:00～
	外国語(注4) 英・独・仏の うちから1言語	選択した領域に 関する論文(注6)		口述試験

※外国人受験生(外国籍を有し、外国所在の外国の高等学校を卒業又は修了した者)の外国語原書読解・外国語試験について

- 外国人受験生は、外国語原書読解・外国語試験として、母語を選ぶことはできません。
- 哲学専攻・美術史学専攻・史学専攻・日本語日本文学専攻・教育学専攻・アーカイブズ学専攻を志望する外国人受験生は、外国語原書読解・外国語試験として日本語を選ぶことができます。

- 注1. 哲学専攻の外国語原書読解については、選択した2科目の辞書をそれぞれ1冊、また美術史学専攻の外国語原書読解については、英語及び選択した1科目の辞書をそれぞれ1冊、持ち込むことができます(電子辞書は不可)。なお、辞書の貸与は一切しません。
2. 学校教育法の定める学校で教職経験等が通算3年以上、又は児童福祉法に定める児童福祉に関わる保育士等の業務経験が通算3年以上(いずれも非常勤を含む、通算可)の者は、辞書を持ち込むことができます。(電子辞書、携帯電話は不可)。なお、辞書の貸与は一切しません。この条件で辞書持ち込みを希望する者は、出願時に履歴書(所定の書式)を添付して資格の判定を申請してください。
3. 上記1.の哲学専攻・美術史学専攻の外国語原書読解以外の全ての科目については、辞書の使用を認めません。ただし、上記2.において辞書の持ち込みを許可された場合は、辞書の使用を認めます。
4. ドイツ語、フランス語の試験は、それぞれドイツ語技能検定試験3級、実用フランス語技能検定試験3級程度の知識を前提とします。
5. i 英語圏の文学・文化、ii 英語学の2分野から1つを選択します。なお、iの「英語圏」は広い地域にわたるため、設問中から選択し解答します。iiにおいても、設問中から選択し解答します。
6. 選択する領域は、i 舞台芸術、ii 映像芸術、iii マンガ・アニメーション芸術、iv ジェンダー文化論のいずれか1つとします。

[受験上の注意]

1. 試験当日は、必ず受験票を持参してください。
2. 受験票を紛失した場合には、試験開始10分前までに試験本部に申し出てください。

3. 試験開始後 20 分を経過した場合には入室を認めません。
4. 公共交通機関の遅延により間に合わなかった場合には、該当の公共交通機関の発行した遅延証明書を持って試験本部に申し出てください。
5. 試験時間中、机の上に置けるものは、鉛筆・シャープペンシル・ボールペン（いずれも黒又は青のみ）・消しゴム・時計・受験票のみです。携帯電話等の通信機器を時計として使用することは禁止します。
6. 携帯電話・スマートフォン・スマートウォッチ等の通信機器は、試験室に入る前に電源を切っておくとともに、アラーム機能を解除しておいてください。携帯電話・スマートフォン・スマートウォッチ等の通信機器を時計の代用として使用することは一切認めません。携帯電話・時計等の電子機器が鳴動した場合には、監督者が受験者本人の了承を得ずに該当物（鞆等に入っている場合は鞆ごと）を試験室外に持ち出し、試験本部で試験終了まで保管します。
7. 試験室内での撮影・録画・録音を禁止します。
8. 試験科目のいずれかひとつでも欠席した場合は、不合格となります。

⑤ 出願手続

1. 出願期間 2025 年 1 月 14 日（火）～1 月 16 日（木）
2. 受付時間 9：00～16：30
3. 出願方法

出願者は、入学検定料 35,000 円を振込のうえ（「5. 入学検定料について」参照）、出願書類（「4. 出願書類」参照）を一括して、本学アドミッションセンターに提出してください。

郵送の場合は、簡易書留（かつ速達扱い）で本学アドミッションセンター宛に、1 月 16 日（木）までに必着で送付してください。

窓口提出の場合は、出願期間内にアドミッションセンター窓口まで持参してください。※上記受付時間外の出願不可。

①出願書類は、各自用意した封筒（角形 2 号）の中に入れ、封筒の表面に所定の出願封筒貼付用紙を貼付して提出してください。

②論文（修士論文）は、試験終了後返送しますので、返送先の住所氏名を明記した封筒に入れて①に同封してください。

③②が各自用意した封筒（角形 2 号）に入りきらない場合は、①と②を大きな封筒に入れて提出してください。

4. 出願書類

志願者は、次の書類を一括して、所定の期日までに本学アドミッションセンターへ提出してください。ただし、本研究科博士前期課程修了者及び修了見込者は、出願時に（6）の書類を必要としません。

(1) 入学志願票（本学所定の用紙、A4 サイズ）

※入学志願票に記入する「希望する指導教員名」については、45 頁以降の「人文科学研究科の概要」等を参照してください。

(2) 写真貼付票（写真 1 枚）・受験票（本学所定の用紙、A4 サイズ）

※写真 1 枚（3 か月以内に撮影したもので、アプリ等で画像（顔等）を加工しておらず、受験時に本人と確認できるもの。縦 4cm × 横 3cm。写真貼付票に貼付してください）

※受験票には、受験者の住所・氏名を記入してください。出願書類の内容を確認し次第、後日受験票を送付します。この本学からの受験票の発送をもちまして、出願書類の受理通知となります。

なお、出願書類を提出してから 2 月 10 日（月）までに受験票が到着しない場合は、必ず本学アドミッションセンターまで問合せください。

(3) 成績証明書（学部）1通

※和文又は英文以外の場合は、和訳又は英訳し、翻訳された内容が原本と相違ないことの証明を大使館等で受けて提出してください（原本も必ず提出してください）。

(4) 成績証明書（大学院）1通

※和文又は英文以外の場合は、和訳又は英訳し、翻訳された内容が原本と相違ないことの証明を大使館等で受けて提出してください（原本も必ず提出してください）。

(5) 入学後の研究計画書（本学所定の用紙、A4 サイズ、HP よりダウンロード）

(6) 修了証明書又は修了見込証明書

※外国の大学を卒業した場合は、取得学位（修士）が記載されているものを提出してください。

※和文又は英文以外の場合は、和訳又は英訳し、翻訳された内容が原本と相違ないことの証明を大使館等で受けて提出してください（原本も必ず提出してください）。

(7) 外国人志願者の場合は①住民票（居住する地方公共団体が発行したもの）、又は②パスポートのコピー、のいずれか

(8) 提出書類記載の氏名が婚姻等により現在の氏名と異なる場合は、同一人物であることを証明する公的書類（戸籍抄本等）

(9) 入学検定料振込金受取書（提出用）

※入学検定料振込依頼票の依頼人欄のコードには『30』と記入してください。

(10) 論文（修士論文）〔本人宛名明記の封筒に入れてください（切手の貼付不要）。口述試験後返却します。〕

論文（修士論文又はそれに相当する論文）又はその写し1部を提出してください。

※本学博士前期課程修了見込者で、すでに修士論文を提出した者は、改めて修士論文を提出する必要はありません。ただし、本学博士前期課程修了者又は修了見込者であっても在籍する専攻（博士前期）と異なる専攻（博士後期）に出願する場合には、論文を提出する必要があります。

※論文は、日本語又は英語で書かれたものを提出してください。

5. 入学検定料について（35,000 円、銀行振込期間：1月6日（月）～1月16日（木））

イ. 本学所定の振込依頼書を使用し、銀行等より電信扱いで振込期間内に振り込んでください。期間外は取り扱いません。なお、りそな銀行本・支店からの場合、手数料は無料です。また、ゆうちょ銀行及び郵便局からの払込みはできません。（現金自動預払機〔ATM〕、インターネットによる振込は使用しないでください）

ロ. 一度提出した書類及び納入した入学検定料は、原則として返還しません。ただし、「入学検定料返還の対象となる理由」のいずれかのケースに該当し、かつ「入学検定料の返還手続」に則り、検定料返還願が受理された場合は、入学検定料を返還いたします（43 頁参照）。この場合、返還には時間がかかりますので、あらかじめご承知おきください。

また、振込手数料については、返還することができません。

ハ. 出願者が日本国内に居住しておらず日本国外から出願する場合には、銀行からの外国送金により入学検定料を振り込んでください。42 頁「外国送金による入学検定料の振込について」の内容をよく読み、期限に余裕をもって手続を行ってください。なお、外国送金した際に銀行から受け取る外国送金依頼書「本人控」のスキャンデータ（PDF）を本学アドミッションセンターにメールで送信するとともに、外国送金依頼書「本人控」のコピーを出願書類と一緒に提出してください。

また、受験にあたっての渡航にあたり「受験許可証」が必要な場合も本学アドミッションセンターにご相談ください。

[注意事項]

(1) 受験特別配慮について

身体機能の障がいにより、受験及び就学に際して特別な配慮を必要とする場合は、**11月29日(金)**までに必ず本学アドミッションセンターに問合せください。

(2) 日本国外からの出願について

出願期間前までに、必ず本学アドミッションセンターにご相談ください。

(3) 出願書類について

- ・出願手続後は、いかなる理由があっても、出願書類に記載した事項の一切の変更は認めません。
- ・出願手続時提出書類（パスポートを除く）は、原本での提出を必須とします。

なお、原本が1部しかない等の理由で提出できない場合は、下記 a、b いずれかの方法によって原本証明をしたコピーの提出を認めます。

- a. 原本を在籍大学等に持参し、コピーを取ってもらい、コピーの内容が原本と相違ないことの証明を受ける（証明の際は、証明日・証明者名を明記のうえ、証明機関の印を押印）。
- b. 原本を本学アドミッションセンターに持参し、アドミッションセンター職員がコピーを取り、コピーの内容が原本と相違ないことの証明を受ける（本学アドミッションセンターの証明印を押印）。

(4) 健康診断書について

出願にあたって健康診断書の提出は必要としません。ただし、入学後に本学で実施する健康診断は、必ず受けてください。

⑥ 合格発表

2025年2月21日(金) 10:00

1. 本学入試情報ホームページ (<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/result/>) に合格者の受験番号一覧を掲載します。また、合格者には、併せて「入学手続書類」を速達郵便で送付します。
※発表日を含め3日経っても未着の場合は、本学アドミッションセンターまで必ず問合せください。
2. 可否に関する問合せには、一切応じません。

⑦ 入学手続

1. 入学手続締切日 2025年3月7日(金) 締切日消印有効

2. 入学手続方法

入学手続方法の詳細については、合格者に送付する「入学手続要項」に従ってください。

合格者は、入学手続締切日までに入学金及び授業料その他の納付金を一括納入（銀行振込）した後、「令和7（2025）年度学習院大学入学手続書類」を郵送（締切日消印有効）して入学手続を完了してください。入学手続締切日までに入学手続を完了しない者は、入学資格を失います。

3. 入学手続時納付金

2025年度入学者の納付金は、現在未定のため、入学手続要項に記載いたします。なお、参考までに2024年度入学者の納付金を37頁に掲載します。

4. 修了証明書

博士前期課程を修了見込で受験した者は、修了後、「修了証明書」を2025年3月31日(月)までに本学アドミッションセンター宛に郵送してください。その際、下記の内容を朱書してください。

修了証明書の右上の余白に、入学研究科・専攻・カナ氏名を明記してください（大学で封がされている場合は、開封して記入してください。厳封の必要はありません）。

5. 入学辞退

本学への入学手続きを行った後、入学辞退を希望し、2025年3月31日（月）16:00までに、本学アドミッションセンターに申し出た者に対しては、入学金を除く納入済みの入学手続き時納付金（授業料その他の納付金）を返還します。

[注意事項]

入学手続き後は、提出した書類の返却には一切応じません。

⑧ 入学時期

2025年4月1日（火）

ただし、出願に際し、大学院博士前期課程又は修士課程修了見込みの資格で受験し、合格した者が、2025年3月31日（月）までに、資格を取得（卒業・修士など）できなかった場合、入学許可を取り消します。

奨学金・研究費

学習院大学大学院博士後期課程給付奨学金について

大学院博士後期課程に在学する大学院生を対象として、納付金負担を軽減し若手研究者の研究活動を奨励することを目的に、給付奨学金を新設しました。申請により、授業料の3分の1相当額を奨学金として給付します。

人文科学研究科特別研究費について

人文科学研究科に在籍する大学院生の研究を支援するため、博士前期課程においては5万円、博士後期課程においては20万円を申請者全員に研究費として給付しています。

【参 考】

参考

2024 年度入学者納付金

博士前期課程

(単位 円)

費目	区分	法学研究科 政治学研究科	経済学研究科 経営学研究科	人文科学研究科		自然科学研究科	
				心理学・臨床心理学・ 教育学専攻以外	心理学・臨床心理学・ 教育学専攻	実 験	理 論
入学金 (入学時のみ)		150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
授業料 第1期		254,000	254,000	255,000	255,000	344,000	344,000
授業料 第2期	※	254,000	254,000	255,000	255,000	344,000	344,000
研究実験費		—	—	—	30,000	70,000	—
施設設備費		198,000	198,000	190,000	190,000	196,000	196,000
輔仁会費		1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
学会費		2,500	—	2,000	2,000	—	—
1年次	入学手続時	605,700	603,200	598,200	628,200	761,200	691,200
	第2期	※ 254,000	※ 254,000	※ 255,000	※ 255,000	※ 344,000	※ 344,000
	計	859,700	857,200	853,200	883,200	1,105,200	1,035,200
2年次以降	第1期	455,700	453,200	448,200	478,200	611,200	541,200
	第2期	254,000	254,000	255,000	255,000	344,000	344,000
	計	709,700	707,200	703,200	733,200	955,200	885,200

※第2期分授業料の振込依頼書は、9月中旬に保証人宛に送付します。

注意1. 2年次以降の納付は、毎年第1期分を4月、第2期分を9月の年2回に分けて行います。なお、4月に年額を1回で納付することもできます。

2. 授業料及び施設設備費については、博士前期課程在学中は同額とします。

授業料及び施設設備費以外の納付金に変更があった場合には、新たに定められた金額を納付するものとします。

寄付金 本学では、学習院の発展並びに教育改革推進のためのご寄付 (任意) をお願いしております。入学後に改めてご案内をお送りする予定でございますので、ご理解のうえご協力下さいますようお願い申し上げます。

博士後期課程

(単位 円)

費目	区分	法学研究科 政治学研究科	経済学研究科 経営学研究科	人文科学研究科		自然科学研究科	
				心理学・臨床心理学・ 教育学専攻以外	心理学・臨床心理学・ 教育学専攻	実 験	理 論
入学金 (入学時のみ)		150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000
授業料 第1期		240,000	240,000	240,000	240,000	325,000	325,000
授業料 第2期	※	240,000	240,000	240,000	240,000	325,000	325,000
研究実験費		—	—	—	30,000	70,000	—
施設設備費		186,000	186,000	180,000	180,000	184,000	184,000
輔仁会費		1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
学会費		2,500	—	2,000	2,000	—	—
1年次	入学手続時	579,700	577,200	573,200	603,200	730,200	660,200
	第2期	※ 240,000	※ 240,000	※ 240,000	※ 240,000	※ 325,000	※ 325,000
	計	819,700	817,200	813,200	843,200	1,055,200	985,200
2年次以降	第1期	429,700	427,200	423,200	453,200	580,200	510,200
	第2期	240,000	240,000	240,000	240,000	325,000	325,000
	計	669,700	667,200	663,200	693,200	905,200	835,200

※本学大学院博士前期課程修了後、直ちに同後期課程に入学を許可された者の入学金は免除されます。

※第2期分授業料の振込依頼書は、9月中旬に保証人宛に送付します。

注意1. 2年次以降の納付は、毎年第1期分を4月、第2期分を9月の年2回に分けて行います。なお、4月に年額を1回で納付することもできます。

2. 授業料及び施設設備費については、博士後期課程在学中は同額とします。

授業料及び施設設備費以外の納付金に変更があった場合には、新たに定められた金額を納付するものとします。

寄付金 本学では、学習院の発展並びに教育改革推進のためのご寄付 (任意) をお願いしております。入学後に改めてご案内をお送りする予定でございますので、ご理解のうえご協力下さいますようお願い申し上げます。

学習院大学大学院博士後期課程給付奨学金について

大学院博士後期課程に在学する大学院生を対象として、納付金負担を軽減し若手研究者の研究活動を奨励することを目的に、給付奨学金を新設しました。申請により、授業料の3分の1相当額を奨学金として給付します。

2024年度 大学院入試結果一覧表

博士前期課程

研究科	専攻	志願			受験			合格					
		学内推薦	一般		計	学内推薦	一般		計	学内推薦	一般		計
			学習院	他大学			学習院	他大学			学習院	他大学	
人文科学	哲学		3	2	5		2	2	4		2	1	3
	美術史学		10	3	13		10	3	13		4	0	4
	史学		5	11	16		5	8	13		3	4	7
	日本語日本文学		4	38	42		3	35	38		3	6	9
	英語英米文学		3	5	8		3	5	8		3	1	4
	ドイツ語ドイツ文学		2	0	2		2	0	2		1	0	1
	フランス文学	1	0	1	2	1	0	1	2	1	0	1	2
	心理学		0	1	1		0	1	1		0	0	0
	臨床心理学		17	43	60		17	34	51		8	6	14
	教育学		1	12	13		1	9	10		1	3	4
	アーカイブズ学		1	7	8		1	7	8		1	7	8
	身体表象文化学		3	39	42		3	33	36		2	4	6
人文科学小計		1	49	162	212	1	47	138	186	1	28	33	62

博士後期課程

研究科	専攻	志願			受験			合格					
		学内推薦	一般		計	学内推薦	一般		計	学内推薦	一般		計
			学習院	他大学			学習院	他大学			学習院	他大学	
人文科学	哲学		3	0	3		3	0	3		3	0	3
	美術史学		6	3	9		5	3	8		4	3	7
	史学		2	1	3		2	1	3		2	0	2
	日本語日本文学		2	2	4		2	1	3		2	0	2
	英語英米文学		1	0	1		1	0	1		0	0	0
	ドイツ語ドイツ文学		1	0	1		1	0	1		1	0	1
	フランス文学	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1
	心理学		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	臨床心理学		4	3	7		4	3	7		4	2	6
	教育学		3	2	5		3	2	5		1	1	2
	アーカイブズ学		1	1	2		1	1	2		0	1	1
	身体表象文化学		1	2	3		1	2	3		1	0	1
人文科学小計		1	24	14	39	1	23	13	37	1	18	7	26

2023年度 大学院入試結果一覧表

博士前期課程

研究科	専攻	志願				受験				合格			
		学内推薦	一般		計	学内推薦	一般		計	学内推薦	一般		計
			学習院	他大学			学習院	他大学			学習院	他大学	
人文科学	哲学		3	1	4		2	1	3		2	1	3
	美術史学		8	4	12		8	4	12		4	3	7
	史学		9	9	18		9	7	16		9	4	13
	日本語日本文学		9	20	29		8	14	22		6	4	10
	英語英米文学		3	3	6		3	3	6		3	2	5
	ドイツ語ドイツ文学		0	0	0		0	0	0		0	0	0
	フランス文学	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1
	心理学		0	3	3		0	1	1		0	0	0
	臨床心理学		20	54	74		20	49	69		7	7	14
	教育学		3	4	7		3	4	7		3	2	5
	アーカイブズ学		1	4	5		1	4	5		1	3	4
	身体表象文化学		1	27	28		1	24	25		1	6	7
人文科学小計		0	58	129	187	0	56	111	167	0	37	32	69

博士後期課程

研究科	専攻	志願				受験				合格			
		学内推薦	一般		計	学内推薦	一般		計	学内推薦	一般		計
			学習院	他大学			学習院	他大学			学習院	他大学	
人文科学	哲学		1	0	1		1	0	1		1	0	1
	美術史学		3	0	3		3	0	3		2	0	2
	史学		3	1	4		3	1	4		3	0	3
	日本語日本文学		3	2	5		2	2	4		1	2	3
	英語英米文学		1	1	2		1	1	2		0	1	1
	ドイツ語ドイツ文学		1	0	1		1	0	1		0	0	0
	フランス文学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	心理学		0	1	1		0	1	1		0	1	1
	臨床心理学		2	0	2		2	0	2		2	0	2
	教育学		0	3	3		0	3	3		0	3	3
	アーカイブズ学		1	0	1		1	0	1		0	0	0
	身体表象文化学		3	0	3		3	0	3		2	0	2
人文科学小計		0	18	8	26	0	17	8	25	0	11	7	18

2022年度 大学院入試結果一覧表

博士前期課程

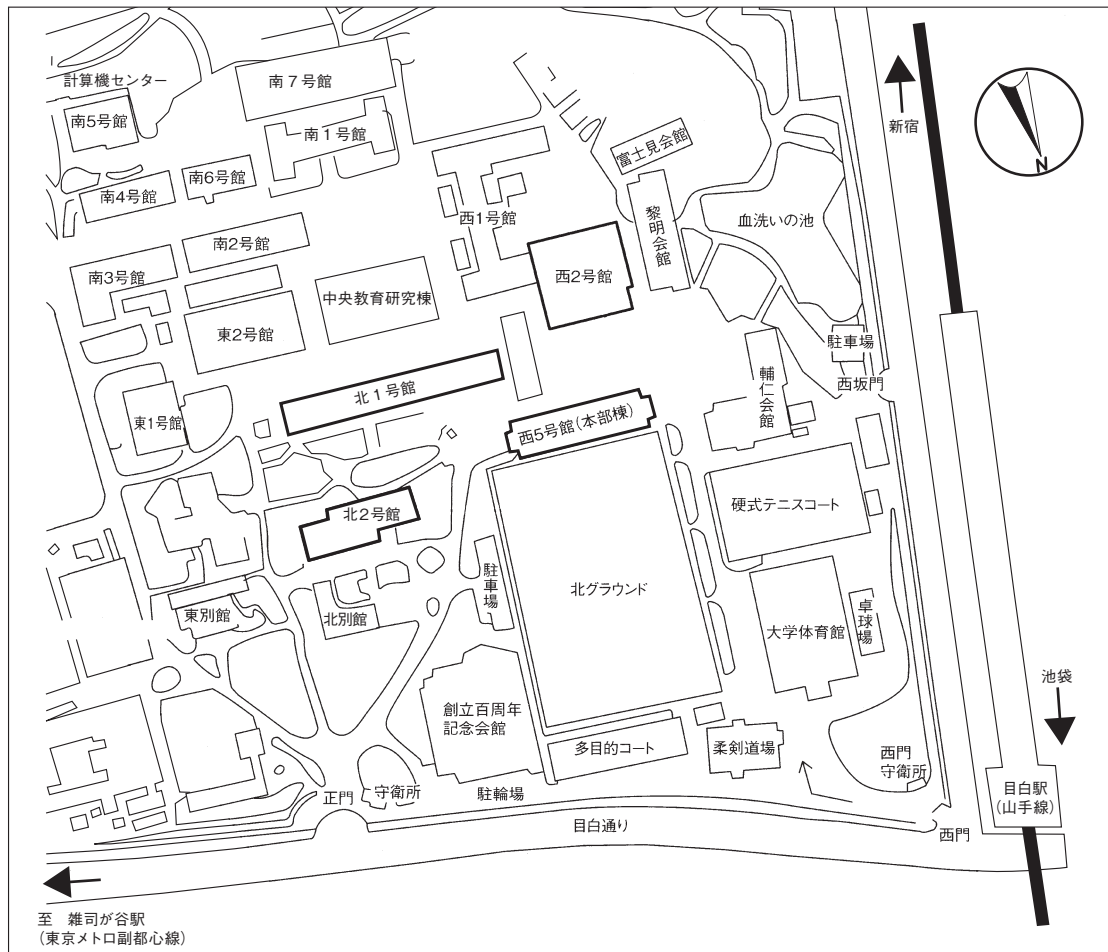
研究科	専攻	志願				受験				合格			
		学内推薦	一般		計	学内推薦	一般		計	学内推薦	一般		計
			学習院	他大学			学習院	他大学			学習院	他大学	
人文科学	哲学		7	2	9		7	2	9		5	0	5
	美術史学		6	6	12		6	5	11		4	0	4
	史学		10	8	18		10	6	16		9	4	13
	日本語日本文学		2	10	12		2	9	11		1	3	4
	英語英米文学		2	4	6		2	4	6		2	1	3
	ドイツ語ドイツ文学		2	2	4		2	2	4		1	2	3
	フランス文学	3	1	3	7	3	1	2	6	1	1	2	4
	心理学		1	0	1		1	0	1		1	0	1
	臨床心理学		15	41	56		14	35	49		6	9	15
	教育学		7	6	13		6	4	10		6	2	8
	アーカイブズ学		1	2	3		1	2	3		1	2	3
	身体表象文化学		1	16	17		1	13	14		1	4	5
人文科学小計		3	55	100	158	3	53	84	140	1	38	29	68

博士後期課程

研究科	専攻	志願				受験				合格			
		学内推薦	一般		計	学内推薦	一般		計	学内推薦	一般		計
			学習院	他大学			学習院	他大学			学習院	他大学	
人文科学	哲学		1	0	1		1	0	1		1	0	1
	美術史学		1	0	1		1	0	1		1	0	1
	史学		1	0	1		1	0	1		1	0	1
	日本語日本文学		2	0	2		2	0	2		2	0	2
	英語英米文学		2	1	3		2	1	3		2	1	3
	ドイツ語ドイツ文学		2	0	2		2	0	2		2	0	2
	フランス文学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	心理学		1	0	1		1	0	1		0	0	0
	臨床心理学		5	1	6		5	1	6		5	1	6
	教育学		1	2	3		1	2	3		1	2	3
	アーカイブズ学		2	1	3		2	1	3		2	1	3
	身体表象文化学		1	0	1		1	0	1		1	0	1
人文科学小計		0	19	5	24	0	19	5	24	0	18	5	23

構内案内図

アドミッションセンターは、案内図中央に位置する西5号館（本部棟）4階です。



交 通：JR 山手線 目白駅下車徒歩3分
 東京メトロ副都心線 雑司が谷駅下車徒歩10分
 *自動車による入構、駐車はできません

試 験 場：9月21日(土)	筆記試験 — 西2号館
：9月21日(土)・22日(日)	口述試験 — 西2号館・北2号館・北1号館文学部各研究室
：2月17日(月)	筆記試験 — 西2号館
：2月17日(月)・18日(火)	口述試験 — 西2号館・北2号館・北1号館文学部各研究室

外国送金による入学検定料の振込について

出願者が日本国内に居住しておらず日本国外から出願する場合は、以下のとおり、外国送金により入学検定料を振り込んでください。

【振込先】

送金種類 (Transfer Type)	海外向電信送金 (Overseas Transfer)	
支払方法 (Payment Method)	通知払 (Advise and Pay)	
円為替取扱手数料 (Lifting Charge)	依頼人負担 (Remitter's Account)	
送金金額 (Amount)	入学検定料+外国向け送金の際にかかる手数料	
送金目的 (Purpose)	入学検定料 (Screening Fee)	
連絡事項 (Message)	※送金人 (Remitter) が志願者本人でない場合は、志願者本人の氏名 (アルファベット) を記入してください。	
送金先	銀行名 (Bank Name)	三菱 UFJ 銀行 (MUFG Bank,Ltd.)
	支店名 (Branch)	高田馬場支店 (Takatanobaba Branch)
	口座番号 (Account Number)	2059039
	受取人 (Beneficiary)	Gakkohojin Gakushuin
	銀行住所 (Bank Address)	〒 169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-2-3 3-2-3,Takatanobaba, Shinjuku-ku,Tokyo Japan 169-0075
	スウィフトコード (Swift Code)	BOTKJPJT

【注意】

- 振込時に発生する振込手数料等 (日本の「三菱 UFJ 銀行」での円為替取扱手数料 (2,500 円) + 海外の銀行における送金手数料 (銀行によって異なります)) は、志願者にてご負担いただきます。
 ※ ご負担いただく金額は、入学検定料 (35,000 円) + 円為替取扱手数料 (2,500 円) + 送金手数料 = 37,500 円 + α となります。
 ※ 払込時の書類にて、円為替取扱手数料は「依頼人 (受験生) 負担」であることを必ず明記してください。
 ※ 「依頼人」欄には、必ず志願者の氏名 (アルファベット) を明記してください。
 ※ 銀行によって円為替取扱手数料等の扱いが異なります。振込を行う際、本学に着金する金額が、必要な金額に対して過不足がないかを銀行担当者によく確認のうえ、振込金額を指定してください。
- 海外の銀行より日本の三菱 UFJ 銀行へ振込する場合、海外の銀行の東京支店を経由する必要はありません。直接日本の三菱 UFJ 銀行高田馬場支店へ振り込むよう、銀行の担当者に伝えてください。海外の銀行の東京支店を経由すると余分な取扱手数料がかかり、本学への入金に不足金が生じますので注意してください。
 ※ 必ず、銀行担当者に本学口座に不足がないよう振込ができるか確認してください。
- 金額に不足がある場合、出願は受け付けられません。
- 日本国内からの代理振込も可能です。その場合は、事前に本学アドミッションセンターにご連絡のうえ、振込の際は、必ず「依頼人」欄に志願者の氏名 (アルファベット) を明記してください。
- 送金に日数を要する可能性があることを考慮して、余裕をもって送金してください。入学検定料は、出願期間前でも受け付けます。
- 入学志願票の「日本国外の銀行から外国送金」に○印を記入して、必ず外国送金依頼書「本人控」のコピーを出願書類に同封してください。なお、「本人控」の原本は、大切に保管してください。
- 入学検定料を海外に返還することとなった場合、発生する手数料 (円為替取扱手数料 (下表を参照) と支払銀行手数料 3,000 円) は、志願者の負担となります。

〈参考：送金金額と円為替取扱手数料〉

送金金額	円為替取扱手数料
8,000 円以上 500 万円未満	2,500 円
3,000 円以上 8,000 円未満	送金金額 ÷ 2 - 1,500 円
3,000 円未満	無料

入学検定料の返還について

入学検定料返還の対象となる理由

以下のいずれかのケースに該当し、かつ「入学検定料の返還手続」に則り、検定料返還願が受理された場合は、入学検定料を返還いたします。なお、振込手数料については、返還することができません。

1. 書類未提出：入学検定料を納入したが、出願書類を出願期間内に提出しなかった。
2. 期間外振込：振込期間後に振り込まれた場合。
3. 過剰納入：入学検定料を適正な金額より多く納入した。
4. 出願不受理：入学検定料を支払い、出願書類を提出したが、出願書類の不備や出願資格を満たさない等の理由により、出願が受理されなかった。
5. その他：本学が認める特別な理由により、入学検定料返還の対象となった。

入学検定料の返還手続（郵送に限る）

必要書類①・②を2025年2月末日までに簡易書留で郵送してください。（消印有効）

(宛先) 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1
学習院大学アドミッションセンター

※封筒の表面に **入学検定料返還願在中** と朱書きしてください。

①入学検定料返還願（本学所定用紙）

「入学検定料返還願」の太枠内に必要事項を記入してください。「入学検定料返還願」は、以下のホームページからダウンロードしてください。

<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/refund/>

②C票／振込金受取書（本人保存）

「入学検定料返還願」の裏面に、入学検定料を納入した際のC票／振込金受取書（本人保存）を貼付してください。

入学検定料返還願が受理されてから、指定の口座に入学検定料を振込むまで3週間程度時間がかかりますので、あらかじめご承知おきください。なお、振込手数料については、返還することができません。

在留資格の取得について

外国人受験生は、原則として入学前に「留学」の在留資格を取得してください。「留学」以外の日本に長期で滞在できる在留資格（「定住者」「家族滞在」等）でも入学・在学することはできますが、授業料減免や奨学金受給の対象になりません（「短期滞在」の在留資格で大学に在籍することはできません）。在留資格に関する申請書類の発行及び入学許可証の発行手続については、本学ホームページ（<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/pass/residence/>）をご確認ください。

※本学入学に支障のないビザ（有効期限が2025年4月1日以降のもの）を保有していない場合、本学での修学が不可能となります。在留資格審査は出入国在留管理を所管する行政庁が行うため、交付が遅れる場合や不許可となった場合、本学は一切の責任を負いません。また、入学辞退申込締切日時は、いかなる理由があっても、入学手続時納付金は返還いたしません。

※入学手続時に日本国外に居住し在留資格を有しない者で、所定の期日までに入学諸手続を完了した者は、本学による「在留資格認定証明書」（「留学」）の代理申請を選択することができます。代理申請を選択した者は、「在留資格認定証明書」（「留学」）を大学から受領後、2025年3月31日（月）16：00までに、入学後も有効な「留学」の在留資格を証明する書類（パスポートの顔写真とビザ（査証）のスタンプページのコピー）を提出する必要があります。提出できなかった場合は、本学での修学が不可能となりますのでご注意ください（手続の詳細は上記の本学ホームページをご確認ください）。

なお、2025年3月31日（月）16：00までに入学辞退を申し出た場合は、納入済の入学手続時納付金（入学金を除く）を返還します。

【人文科学研究科の概要】

各専攻の専任教員及び講義題目はいずれも 2024 年度のものであり、
2025 年度には変更の可能性があります。

学習院大学大学院人文科学研究科の概要

本大学院人文科学研究科は、優秀な研究者、教育者及び高度の専門的知識を持った職業人たるべき人材の育成につとめ、本学設立の目的使命の達成をめざしています。

1. 本大学院人文科学研究科の組織・入学定員・修業年限

a 博士前期課程（修業年限2年）

専攻課程及び入学定員は次のとおりです。

研究科	専攻	入学定員
人文科学研究科	哲学専攻	10名
	美術史学専攻	10名
	史学専攻	15名
	日本語日本文学専攻	20名
	英語英米文学専攻	10名
	ドイツ語ドイツ文学専攻	5名
	フランス文学専攻	5名
	心理学専攻	6名
	臨床心理学専攻	12名
	教育学専攻	20名
	アーカイブズ学専攻	15名
	身体表象文化学専攻	10名

b 博士後期課程（修業年限3年）

専攻課程及び入学定員は次のとおりです。

研究科	専攻	入学定員
人文科学研究科	哲学専攻	3名
	美術史学専攻	3名
	史学専攻	3名
	日本語日本文学専攻	3名
	英語英米文学専攻	3名
	ドイツ語ドイツ文学専攻	2名
	フランス文学専攻	2名
	心理学専攻	2名
	臨床心理学専攻	3名
	教育学専攻	5名
	アーカイブズ学専攻	3名
	身体表象文化学専攻	3名

I 哲学専攻

1. 専任教員及び研究分野

氏名	職名	専門分野・研究主題	研究の特徴・重点など
小島和男	教授	ギリシア哲学（特にプラトン研究）	テキストの読解に重点をおいています。また、内容に加えて、その哲学者がどうしてそれを書いたのか、書くということと哲学することのつながりについて意識しながら研究しているのが特徴だと言えます。また、最新の研究情報の収集及び人的交流のため、各種学会活動を積極的に行っております。
澤田和範	准教授	近現代英米哲学（特にヒューム哲学）	思想史的背景を考慮しつつ原典の厳密な解釈を与える。と同時に、現代の分析的な議論を用いて批判的な吟味と評価を行う。
陶久明日香	教授	西洋近現代哲学（特にハイデッガー哲学とその影響について）	原典の緻密な読解を通じて哲学的言説の中に隠されている可能性を探り出し、再構築する。またその有意義性を時代背景や現代の諸問題などを考慮に入れて検討する。
杉山直樹	教授	西洋近現代哲学（特にベルクソン哲学）	ベルクソンを中心としつつも、それに先立つフランス哲学や、同時代の科学論を視野に収めながら研究を続けています。ある哲学者の内在的理解と哲学史的研究、ともに重要だと思っています。
松波直弘	教授	日本思想史（特に鎌倉仏教思想）	宗教や宗派としての問題や、勢力展開の時代性など、テキスト成立に関わる文脈と、テキストそれ自体が持つ言葉の文脈とを読み解く。

2. 2024年度講義題目及び担当者

授業科目（講義題目）	副題	単位	開講期間	担当者	備考
哲学演習	イデアと芸術	4	通年	陶久明日香 教授	
哲学演習	西洋古代哲学原典研究	4	通年	小島和男 教授	
哲学演習	『人間本性論』第三巻の精読	4	通年	澤田和範 准教授	
哲学演習	デリダ『声と現象』を読む	4	通年	杉山直樹 教授	
◆哲学演習	死へと関わりつつ存在すること	4	通年	陶久明日香 教授	
◆哲学演習	フーコー『生の歴史1』を読む	4	通年	杉山直樹 教授	
◆哲学演習		4	通年	板橋勇仁 講師	
◆哲学演習	アリストテレス『エウデモス倫理学』を読む	2	第2学期	佐良土茂樹 講師	
◆哲学演習	プラトン『イオン』を読む～詩人の才能とは何か～	2	第2学期	小川文子 講師	
思想史演習	華嚴思想研究	4	通年	松波直弘 教授	
◆思想史演習	ロック以来の諸問題	4	通年	澤田和範 准教授	
◆思想史演習	『正法眼蔵』の〈哲学〉その2	4	通年	松波直弘 教授	
◆思想史演習	中世の神道思想を読む	4	通年	小平美香 講師	
◆哲学特殊研究	分析哲学入門	4	通年	澤田和範 准教授	
◆哲学特殊研究	ベネターの反出生主義について	2	第1学期	小島和男 教授	
◆哲学特殊研究	美と芸術の源流	2	第2学期	小川文子 講師	
◆思想史特殊研究	実存主義入門	4	通年	國領佳樹 講師	
◆思想史特殊研究	〈説話〉の思想史	4	通年	松波直弘 教授	
修士論文指導(哲学専攻)		2	集中(通年)		
博士論文指導(哲学専攻)		2	集中(通年)		

◆印は大学院授業科目であるが、学部生が履修する場合もある。

Ⅱ 美術史学専攻

1. 専任教員及び研究分野

氏名	職名	専門分野・研究主題	研究の特徴・重点など
荒川 正明	教授	日本美術史・工芸史	陶磁器を中心に、その造形を他の素材の作品との比較を通じて考察する。うつわが使われる場にも注目している。
京谷 啓徳	教授	西洋美術史・芸術学	ルネサンス君主の宮廷美術を中心に、初期近世イタリア美術を研究する。美術と演劇・芸能の接点にも関心がある。
近藤 壮	教授	日本美術史（近世・近代絵画史）	近世・近代の絵画を中心に、視覚イメージの分析から作品が生み出された背景、その意味と機能について考察します。
皿井 舞	教授	日本美術史 （特に彫刻を中心とする仏教美術）	古代・中世の仏像を中心に、作品を生み出す主体である、注文主、仏師、僧侶などの関わりに注目をしながら研究をしています。
吉田 紀子	教授	西洋近代美術史・デザイン史	芸術家、作品、周辺環境（批評や政策）が複合的に紡ぎだす美術史の広がりに向け、西洋近代の美術及びデザインに対して社会文化史的視点からアプローチする。

2. 2024年度講義題目及び担当者

授業科目（講義題目）	副題	単位	開講期間	担当者	備考
日本東洋美術史演習	日本東洋美術史研究の方法	4	通年	近藤 壮 教授	
日本東洋美術史演習	日本美術史研究の方法論	4	通年	皿井 舞 教授	
◆日本東洋美術史演習	現代の生活空間と工芸の存在を再考する	4	通年	荒川 正明 教授	
西洋美術史演習		4	通年	京谷 啓徳 教授	
西洋美術史演習		4	通年	松井 裕美 講師	
◆芸術学演習	19世紀の浮世絵と文化交流	4	通年	藤澤 紫 講師	
◆日本東洋美術史特殊研究		4	通年	荒川 正明 教授	
◆日本東洋美術史特殊研究	日本近世絵画史論	4	通年	近藤 壮 教授	
◆西洋美術史特殊研究	「ナビ派」再考	4	通年	杉山 菜穂子 講師	
◆西洋美術史特殊研究	デュラーとその時代ードイツ美術史入門	4	通年	秋山 聡 講師	
◆西洋美術史特殊研究	イタリア・ルネサンス絵画における物語表現	4	通年	京谷 啓徳 教授	
美術館学特殊研究（大学院）	美術館コレクションの活用を再考する	4	通年	荒川 正明 教授 古川 攝一 講師	第1学期 第2学期
修士論文指導（美術史学専攻）		2	集中（通年）		
博士論文指導（美術史学専攻）		2	集中（通年）		

◆印は大学院授業科目であるが、学部生が履修する場合もある。

Ⅲ 史学専攻

1. 専任教員及び研究分野

氏名	職名	専門分野・研究主題	研究の特徴・重点など
家永 遵嗣	教授	日本中世史	日本中世史、特に室町から戦国期にかけての政治史。将軍権力のありかたを、訴訟の手続きや軍事力の行使などの諸面を通じて精力的に追求する。
鐘江 宏之	教授	日本古代史	日本古代史、特に律令政治の背景にある社会・文化、地方行政と地方社会、文書行政のあり方、出土文字資料の史料学的研究などに幅広く取り組んでいる。
亀長 洋子	教授	西洋中世史	西洋中世史、特に中世盛期からルネサンス期までのイタリアや地中海世界を対象に都市社会史や商業活動に関わるテーマを幅広く扱っている。
工藤 晶人	教授	西洋近代史	フランスとマグリブの関係を専門として、地中海の歴史について考えている。通訳者、旅行者、改革者などに着目して、人々の交流を長い時間のなかでとらえなおすことを試みている。
島田 誠	教授	西洋古代史	西洋古代史、特に元首政期のローマ帝国史が専門で、「ポプルス」の構成はどうだったか、「属州都市」がどんな状況だったか等々と研究の幅を広げている。
海老根 量介	准教授	中国古代史	東洋古代史、特に戦国時代から秦漢時代の中国が専門。出土文字史料を活用し、当時の人々の生活や文化に光をあてた研究を行っている。
佐藤 雄介	准教授	日本近世史	日本近世史。特に、幕政史・財政史・朝幕関係（＝天皇・朝廷と幕府の関係）を研究。それらをリンクさせながら江戸時代の政治を描く。
千葉 功 (兼任)	教授	日本近代史	日本近代史、特に明治期の政治外交史。日露戦争期の日本外交研究から出発し、対象を推移させて大久保政権～帝国憲法発布期の研究を試みている。
武内 房司 (兼任)	教授	中国近代史	東洋近代史、特に近代華南・東南アジア世界を人の移動や宗教の伝播に注目しながら幅広く研究。

※兼任教員も指導教授とすることができる。

2. 2024年度講義題目及び担当者

授業科目（講義題目）	副題	単位	開講期間	担当者	備考
日本史演習	『兼敦朝臣記』永徳2年12月記、永徳3年4月25日記講読	4	通年	家永 遵嗣 教授	
日本史演習	『日本三代実録』講読	4	通年	鐘江 宏之 教授	
日本史演習	日本近現代史の諸問題	4	通年	千葉 功 教授	
日本史演習		4	通年	荒木 裕行 講師	
東洋史演習	清代日記研究	4	通年	武内 房司 教授	
東洋史演習	張家山漢簡（336号墓）『功令』を読む	4	通年	海老根 量介 准教授	
西洋史演習	西洋中世史史料研究	4	通年	亀長 洋子 教授	
西洋史演習	比較史とグローバルヒストリー	4	通年	工藤 晶人 教授	
西洋史演習	ラテン語史料の講読	4	通年	島田 誠 教授	
◆日本史特殊研究	中世前期古記録講読	4	通年	本郷 恵子 講師	
◆日本史特殊研究	日本古代の木簡と文書の研究	4	通年	鐘江 宏之 教授	
◆日本史特殊研究	日本近世史の史料読解の方法	4	通年	清水 光明 講師	
◆日本史特殊研究	日本近世史研究の方法	4	通年	岩淵 令治 講師	
◆東洋史特殊研究	『新学偽経考』を読む／『中国歴史研究法補編』を読む	4	通年	海老根量介准教授・武内房司教授	
◆東洋史特殊研究	中国民衆宗教の史料に触れる	2	第1学期	小武海 櫻子 講師	
◆東洋史特殊研究		2	第2学期	板橋 暁子 講師	
◆西洋史特殊研究	近代ドイツ社会文化史—史料で見る市民層の生活世界—	4	通年	辻 英史 講師	
◆古文書学文献学研究	室町時代の日記と紙背文書を読む	4	通年	末柄 豊 講師	
史学理論史学研究		4	通年	北村 暁夫 講師	
修士論文指導(史学専攻)		2	集中(通年)	家永 遵嗣 教授	
博士論文指導(史学専攻)		2	集中(通年)	家永 遵嗣 教授	

◆印は大学院授業科目であるが、学部生が履修する場合もある。

IV 日本語日本文学専攻

1. 専任教員及び研究分野

氏名	職名	専門分野・研究主題	研究の特徴・重点など
安部清哉	教授	日本語学・方言学	日本語の語彙（言葉の意味と構造）と資料の研究、及び、方言学・方言の歴史
勝又隆	教授	日本語学・日本語文法史	上代・中古を中心とした日本語の史的研究。古代語の文法体系の記述と史的変遷の研究。
金田智子	教授	日本語教育学、授業分析	・日本語教育の内容と方法に関する研究 ・日本語教師の養成・研修、教師の成長
鈴木健一	教授	日本近世文学	・江戸時代の文学表現を分析する ・古典享受の様相を分析する
千野裕子	准教授	平安時代の文学、物語文学	平安文学後期を中心とした、物語文学における影響関係と個々の作品の独自性の分析
中上亜樹	准教授	日本語教育学、第二言語習得論	第二言語習得論に基づく外国語教授法 インプット理解のメカニズム
中嶋真也	教授	日本上代文学	・上代文学作品の精説 ・上代文学作品の享受研究
中野貴文	教授	日本中世文学	中世以前からの影響、中世以降の享受等を含め、中世文学の史的動態を分析する。
中山昭彦	教授	近現代文学	1890年代～1930年代の文学・美術・国語政策・メディアの重層的関係の研究 戦後から現在までの反＝表象的な現代文学研究
前田直子	教授	現代日本語学	・現代日本語文法、とくに複文の記述的研究 ・日本語教育における文法研究
山本芳明	教授	日本近現代文学の研究	・1910年代から80年代にかけての文学場の変動の研究 ・私小説と批評の関係 ・経済的視点から見る文化活動について
鷲尾龍一	教授	言語学、言語学史	・東西諸言語の比較研究 ・翻訳をめぐる諸問題 ・国語学史・言語学史の再構成

※◎の付してある教員は、2026年3月退職予定です。

2. 2024年度講義題目及び担当者

授業科目（講義題目）	副題	単位	開講期間	担当者	備考	
◆日本語学特殊研究	多文化共生社会のためのコミュニケーションについて考える	4	通年	鷲尾龍一	教授 講師 講師 教授 教授 講師 講師 教授 教授 教授 教授 教授 教授 教授 教授 教授 教授 教授 教授 教授 教授	
◆日本語学特殊研究		2	第1学期	島田徳子		
◆日本語学特殊研究	日本語史研究法（現代語・古典語）	2	第2学期	松崎寛		
◆日本語史特殊研究		4	通年	安部清哉		
◆日本語学特殊研究	馬琴読本講読	4	通年	神田正哉		
◆日本文学特殊研究	研究の現在－経済小説としての風俗小説	4	通年	山本芳明		
◆日本文学特殊研究	『今昔物語集』巻二十七講読	4	通年	桜井宏徳		
◆日本文学特殊研究		4	通年	鷲尾和弘		
◆日本文学史特殊研究	書誌学入門	4	通年	石澤一志		
◆日本語学演習	古代日本語研究の方法と実践	4	通年	勝又隆		
◆日本語学演習	リフレクションを通じた教師の成長	4	第1学期	金田智子		週2回
◆日本語学演習	他動性構文及び他動詞の意味的・文法的分析	4	通年	前田直子		
◆日本語学演習	第二言語学習の心理	4	通年	福田倫子		
◆日本文学演習	『万葉集』巻第十九を読む	4	通年	中嶋真也		
◆日本文学演習	『徒然草』精読	4	通年	中野貴文		
◆日本文学演習	江戸時代の紀行文を読む	4	通年	鈴木健一		
◆日本文学演習	文学と文化の間	4	通年	中山昭彦		
◆日本文学演習	為家本『狭衣物語』を読む	4	通年	千野裕子		
◆日本文学演習	上代文学研究法	4	通年	瀬間正之		
修士論文指導（日本語日本文学専攻）		2	集中(通年)	金田智子		
修士論文（日本語日本文学専攻）		0	集中(通年)	金田智子		
博士論文指導（日本語日本文学専攻）		2	集中(通年)	金田智子		

◆印は大学院授業科目であるが、学部生が履修する場合もある。

V 英語英米文学専攻

1. 専任教員及び研究分野

氏名	職名	専門分野・研究主題	研究の特徴・重点など
新井 景子	教授	アメリカ文学	19世紀半ばから20世紀初頭のアメリカ小説における女性像
Louise Ohashi	准教授	応用言語学、英語教育学	Second language acquisition, CALL/MALL, learner autonomy, learner motivation, and multilingualism.
上岡 伸雄	教授	現代アメリカ小説	特にドン・デリーロ、ポール・オースター、フィリップ・ロス、ティム・オブライエンなど
桐山 大介	准教授	アメリカ文学・アメリカ文化	ウィリアム・フォークナーやラルフ・エリソンら、20世紀前半から中盤のアメリカ作家を中心に研究。
田辺 千景	教授	19世紀米文学	アメリカ家庭/感傷小説の系譜、及び Henry James, Edith Wharton など
富田 祐一	教授	英語教育学	教授法、第二言語習得、外国語教育政策など
平田 一郎	教授	語用論、意味論、理論言語学	文法理論、会話英語の語用論的分析など
Andrew Fitzsimons	教授	アイルランド文学	Joyce, Beckett, Yeats. Twentieth Century Poetry. Contemporary Irish poetry; Kinsella, Heaney, Muldoon etc. Film Studies.
眞野 泰	教授	英小説	特に現代イギリスの小説と文化
吉野 由利	教授	18・19世紀イギリスとアイルランドの文学	ロマン派期の小説（特に national tale）。児童文学。
中野 春夫 (兼任)	教授	ルネサンス期英文学・劇	ルネサンス期及び近代初期のイギリス演劇とその文化的・社会的背景
今野 弘章	教授	英語学、言語学、語用論	日英語の周辺の現象、統語論と語用論のインターフェイス、言語と類像性と有標性

※兼任教員も指導教授とすることができる。

2. 2024年度講義題目及び担当者

授業科目（講義題目）	副題	単位	開講期間	担当者	備考
◆英米語学特殊研究 作家作品特殊研究	英語の文法化の理論的及び実証的考察	4	通年	保坂 道雄 講師	
	Jon McGregor の短篇精読	4	通年	眞野 泰 教授	
	英米語学演習	4	通年	平田 一郎 教授	
	英米語学演習	4	通年	今野 弘章 教授	
◆英米語学演習	World Englishes	4	通年	L. 大橋 准教授	
	英米語学演習	4	通年	富田 祐一 教授	
	英米文学演習	4	通年	末廣 幹 講師	
◆英米文学演習	『緋文学』を読む	4	通年	新井 景子 教授	
◆英米文学演習	Poetry in the 20th Century	4	通年	A. Fitzsimons 教授	
◆英米文学演習	アメリカ文学に描かれた「罪と罰」	4	通年	田辺 千景 教授	
◆英米文学演習	ヴィクトリア朝の文学と文化	4	通年	吉野 由利 教授	
◆英米文学演習	20世紀アメリカ小説精読	4	通年	桐山 大介 准教授	
英米文学演習	This Side of Paradise 講読	4	通年	上岡 伸雄 教授	
博士論文指導		2	集中(通年)	富田 祐一 教授	

◆印は大学院授業科目であるが、学部生が履修する場合もある。

VI ドイツ語ドイツ文学専攻

1. 専任教員及び研究分野

氏名	職名	専門分野・研究主題	研究の特徴・重点など
岡本 順治 [◎]	教授	ドイツ語学、認知言語学、言語理論	心態詞 (Modalpartikeln) の間主観的意味の分析と、「場所と方向」の意味論が近年の主なテーマです。言語表現の意味は統語構造に沿った形で構造的に決まるといふ形式側面と同時に、その表現が使われる文脈によって決定されるというもう1つの側面があります。このような2つの側面を捉えるような理論と、それに基づく分析をすることに興味があります。
小林 和貴子	教授	現代ドイツ文学、聴覚芸術、メディア論	オーディオドラマを中心とした聴覚・音響芸術をメディア文化史の観点から研究しています。具体的にはメディアとテキストの関係、メディアによる知覚の変容などの問題を扱っています。また、ある文化における文学的テキストの生成メカニズムにも関心があり、物語、ジャンル、サブカルチャーなどをキーワードに文化研究を行っています。
清野 智昭	教授	ドイツ語学、コーパス言語学、応用言語学	現代ドイツ語の構文とその意味特性について研究しています。特に、有生性が構文に与える特性が関与する構文、具体的には、身体部位への働きかけを表す構文、無生物主語構文、心理動詞構文に興味を持っており、ドイツ語コーパスを使って分析しています。また、効果的な外国語 (特にドイツ語) の学習法と教授法にも関心を持っています。
高田 博行 [◎]	教授	ドイツ語学、ドイツ語史、歴史語用論	近現代のドイツ語を、社会言語学的・語用論的観点から分析しています。具体的には、17世紀における文法家の果たした標準語形成上の役割、ライプニッツの国語コンプレックス、ドイツ語史における外来語問題の歴史、正書法改革の歴史、18世紀後半の辞書から再構成する当時の市民たちの言語的日常生活、J.Grimmの言語観、ナチズムの言語操作などに興味を持ち取り組んでいます。このように、人のこころと顔が見えるドイツ語史を目指しています。
トーマス・ペカー	教授	ドイツ語圏文学、文化論	近代文学、亡命移民文学、文献学、文化学などです。例えば、19～20世紀のドイツや欧州において日本文化がどのように受容されていたかや、ナチス時代に欧州からアジアを経由して米国等へ移住した人々がアジア特に日本文化をどのように理解し、その後の作品にどう影響したかという研究です。プレヒト、ユンガー、ムージル、ニーチェ、カフカなどが対象です。また、最近では現代を対象としたインターカルチュラル研究 (文化交流やトランスカルチュラル研究を含む) に取り組んでいます。
伊藤 白	准教授	現代ドイツ文学	「イメージ」とは常に作られたものであるという意識のもと、ドイツ語圏の文学作品 (特にトーマス・マンの文学) やドイツ語で書かれたさまざまな言説を題材に、そこに描かれた「他者」(ジェンダー的・宗教的・民族的・政治的・文化的他者等) のイメージを研究しています。また、その他者像の理解を助けるものとして、日独の経済、社会、政治的背景の比較にも取り組んでいます。
田丸 理砂 (兼任)	教授	ドイツ語圏文学、ジェンダー論	社会の民主化及び大衆化がジェンダーと表現にどのような影響を与えたかに注目して研究を進めています。具体的には1920年代から1930年代にかけて世界各地で同時多発的に起きたモダンガール現象と、当時さまざまな芸術分野で活躍した女性アーティスト (文学、写真、建築など) との関係性について取り組んできました。現在は彼女たちのその後の作品や活動にも研究を広げています。また現代文学にもアンテナを張ろうと心がけています。

※兼任教員も指導教授とすることができる。

※◎の付してある教員は、2025年3月退職予定です。

2. 2024年度講義題目及び担当者

授業科目 (講義題目)	副題	単位	開講期間	担当者	備考
博士論文指導		2	集中(通年)	小林 和貴子 教授	
修士論文		0	集中(通年)	小林 和貴子 教授	
修士論文指導		2	集中(通年)	小林 和貴子 教授	
◆ドイツ語学特殊研究 (1)		2	第1学期	MEYER, Thomas 講師	
◆ドイツ語学特殊研究 (2)		2	第2学期	MEYER, Thomas 講師	
◆ドイツ語学特殊研究 (3)		2	第1学期	平井 敏雄 講師	
◆ドイツ語学特殊研究 (4)		2	第2学期	平井 敏雄 講師	
◆ドイツ文学特殊研究 (1)		2	第1学期	PEKAR, Thomas 教授	
◆ドイツ文学特殊研究 (2)		2	第2学期	PEKAR, Thomas 教授	
ドイツ語学演習 (1)	意味論と語用論の関係を考える	2	第1学期	岡本 順治 教授	
ドイツ語学演習 (2)	意味論と語用論の関係を考える	2	第2学期	岡本 順治 教授	
ドイツ語学演習 (3)	ドイツ語構文文法 (1)	2	第1学期	清野 智昭 教授	
ドイツ語学演習 (4)	ドイツ語構文文法 (2)	2	第2学期	清野 智昭 教授	
ドイツ語史演習 (1)	ドイツ語の歴史: 1500～1900年	2	第1学期	高田 博行 教授	
ドイツ語史演習 (2)	ドイツ語の歴史語用論	2	第2学期	高田 博行 教授	
ドイツ文学演習 (1)	ポストコロニアリズム	2	第1学期	伊藤 白 准教授	
ドイツ文学演習 (2)	アライダ・アスマンを読む	2	第2学期	伊藤 白 准教授	
ドイツ文学演習 (3)	イルゼ・アイヒンガーのラジオ・エッセー	2	第1学期	小林 和貴子 教授	
ドイツ文学演習 (4)	イルゼ・アイヒンガーのラジオ・エッセー	2	第2学期	小林 和貴子 教授	
◆ドイツ文学演習 (5)	記憶及び想起に関する短編小説を読む	2	第1学期	田丸 理砂 教授	
◆ドイツ文学演習 (6)	映画と文学	2	第2学期	田丸 理砂 教授	

◆印は大学院授業科目であるが、学部生が履修する場合もある。

VII フランス文学専攻

1. 専任教員及び研究分野

氏名	職名	専門分野・研究主題	研究の特徴・重点など
大野 麻奈子	教授	19・20世紀フランス文学	ヴィクトル・ユゴーとサミュエル・ベケットを中心とした19・20世紀の演劇について研究している。
志々見 剛	准教授	16世紀フランス文学・思想	モンテーニュを中心としたフランス16世紀の文学・思想について、特に同時代の歴史叙述や歴史理論との相互的な関係を軸に研究している。
鈴木 雅生	教授	20世紀フランス文学	ル・クレジオをはじめ、西欧を相対化する視点を持つ近現代のフランス作家を軸に研究している。
田上 竜也	教授	20世紀フランス文学・思想	ポール・ヴァレリーを中心とする近現代作家の研究。身体論や、文学と建築とのかかわりについても考究している。
内藤 真奈	准教授	20世紀フランス文学、写真論、病気表象	エルヴェ・ギベールを中心とした20世紀の小説、写真などの視覚的イメージとテキストの関係、及び文学作品における病気表象について研究している。
中条 省平 (兼任)	教授	19世紀フランス文学、映画史、漫画・アニメ、現代フランス文化	19世紀後半のフランスは、バルベール・ドールヴィイのカトリック神秘主義と、ゾラの自然主義の両極に小説の動向が分裂するが、ユイスマンスを両者の媒介項として新たな文学史の視角を探る。
ティエリ・マレ	教授	フランス演劇、ルネサンス文学、詩法、翻訳論	話し言葉と書き言葉の相互関係を具体的に分析して、文学的言説の特徴、役割、目的の(仮の)定義をめざす。

※兼任教員も指導教授とすることができる。

※◎の付してある教員は、2025年3月退職予定です。

2. 2024年度講義題目及び担当者

授業科目(講義題目)	副題	単位	開講期間	担当者	備考
フランス語学特殊研究	フランス語の歴史的理解	4	通年	松村 剛 講師	
◆フランス文学特殊研究	モラリスト研究	4	通年	志々見 剛 准教授	
◆フランス語学演習	Production écrite	4	通年	A. ドリブル 講師	
◆フランス語学演習	日常言語について考える	4	通年	中尾 和美 講師	
◆フランス文学演習	Tragédies bibliques	4	通年	ティエリ・マレ 教授	
◆フランス文学演習	19世紀自然主義小説読解	4	通年	中条 省平 教授	
◆フランス演劇演習	Aspects de la scène francophone	4	通年	P. ドゥヴオス 講師	
修士論文指導(フランス文学専攻)		2	集中(通年)	田上 竜也 教授	
博士論文指導(フランス文学専攻)		2	集中(通年)	田上 竜也 教授	

◆印は大学院授業科目であるが、学部生が履修する場合もある。

VIII 心理学専攻

1. 専任教員及び研究分野

氏名	職名	専門分野・研究主題	研究の特徴・重点など
伊藤 忠 弘	教授	社会心理学	自己評価の維持や高揚など「自己」に関連した動機の研究、及び対人関係が達成動機や社会的動機に及ぼす影響に関心を持っている。
今井 久 登	教授	認知心理学	人間の記憶、特に潜在記憶（無意識の記憶）に興味があり、潜在記憶と意識的な記憶活動との関係や、潜在記憶と知覚や思考など他の認知活動との相互作用についても研究中。
篠ヶ谷 圭 太	教授	教育心理学	認知心理学にもとづく効果的な指導法や学習法に関する研究を行いながら、教育現場と協働して実践の開発及び効果検証を行っている。
宮崎 弦 太	准教授	社会心理学	親しい人間関係を構築・維持する中での心理・行動、また、主観的幸福感を規定する社会心理学的要因について、相手との関係性や社会環境の影響という観点から研究を行っている。
山本 政 人	教授	発達心理学	乳幼児期の認知、言語、社会性の発達を中心テーマとし、人間の発達を社会的文脈の中でとらえることを目指している。

2. 2024 年度講義題目及び担当者

授業科目（講義題目）	副題	単位	開講期間	担当者	備考
心理学演習 1	意識研究における基礎的視座——「動物意識の誕生」を読む	4	通年	今井 久 登 教授	
心理学演習 2	動機づけの科学	4	通年	伊藤 忠 弘 教授	
心理学演習 3	教育心理学研究の動向と展望	4	通年	篠ヶ谷 圭 太 教授	
心理学演習 4	親密関係に関する社会心理学研究	4	通年	宮崎 弦 太 准教授	
心理学特別研究 2	発達研究の動向と課題	4	通年	山本 政 人 教授	注 1)
博士論文指導（心理学専攻）		2		山本 政 人 教授	

注 1) 博士前期課程の学生が履修する場合、「心理学特殊研究」の単位となる。

IX 臨床心理学専攻

1. 専任教員及び研究分野

氏名	職名	専門分野・研究主題	研究の特徴・重点など
川 崙 克 哲	教授	臨床心理学・心理療法における関係性及び技法論	心理療法の実践の中から、心理療法というものの「構造」、クライアント-治療者の「関係性」、その中でやりとりされ浮かび上がってくる「イメージ」「言語」に関心を持っている。
北 山 純	教授	臨床心理学、心理療法、高齢者の心理臨床	心理療法におけるクライアントの語りやイメージに着眼し、その治療機序について研究している。「老い」「死」「宗教性」をめぐる心理臨床にも関心を持ち続けている。
林 公 輔	教授	精神医学・臨床心理学	夢や描画などのイメージを通してここらに出会うことに関心がある。そのような出会いの場である心理療法に取り組んでいる一方、精神科医として一般精神科臨床にも携わっている。
吉 川 眞 理	教授	臨床心理学・心理療法とその習熟過程・心理査定・スクールカウンセリング	心理査定論を中心として心理臨床の質の向上と訓練法に関する研究を行っている。ハンドテストに関する解釈理論及び臨床実践への適用可能性の検討も継続して取り組む。
伊 藤 忠 弘 (兼 任)	教授	社会心理学	自己評価の維持や高揚など「自己」に関連した動機の研究、及び対人関係が達成動機や社会的動機に及ぼす影響に関心を持っている。
今 井 久 登 (兼 任)	教授	認知心理学	人間の記憶、特に潜在記憶（無意識の記憶）に興味があり、潜在記憶と意識的な記憶活動との関係や、潜在記憶と知覚や思考など他の認知活動との相互作用についても研究中。
篠ヶ谷 圭 太 (兼 任)	教授	教育心理学	認知心理学にもとづく効果的な指導法や学習法に関する研究を行いながら、教育現場と協働して実践の開発及び効果検証を行っている。
宮 崎 弦 太 (兼 任)	准教授	社会心理学	親しい人間関係を構築・維持する中での心理・行動、また、主観的幸福感を規定する社会心理学的要因について、相手との関係性や社会環境の影響という観点から研究を行っている。
山 本 政 人 (兼 任)	教授	発達心理学	乳幼児期の認知、言語、社会性の発達を中心テーマとし、人間の発達を社会的文脈の中でとらえることを目指している。

※兼任教員は指導教授として希望することはできない。

2. 2024 年度講義題目及び担当者

授業科目（講義題目）	副題	単位	開講期間	担当者	備考	
臨床心理学特論	ロールシャッハテストの力動的解釈を中心に	4	通年	北山純教授	注1) 注2)	
臨床心理面接特論		4	通年	川寄克哲教授		
臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)		2	第1学期	吉川眞理教授		
臨床心理査定演習Ⅱ		2	第2学期	小林眞孝講師		
心理療法技法論 (心理支援に関する理論と実践)		2	第1学期	小林眞孝講師		
精神医学特論Ⅰ (保健医療分野に関する理論と支援の展開)		2	第2学期	林公輔教授		
精神医学特論Ⅱ		2	第1学期	林公輔教授		
投影法特論		2	第1学期	小嶋嘉子講師		
心の健康教育特論 (心の健康教育に関する理論と実践)		2	第1学期	小嶋嘉子講師		
心理療法特論Ⅱ		2	第1学期	金吉晴講師		
障害者(児)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)		2	第2学期	中島由宇講師		
家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)		2	第1学期	青木紀久代講師		
福祉心理支援特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)		2	集中(第1学期)	内海新祐講師		
心理学研究法特論Ⅰ		2	第1学期	綾城初穂講師		
心理学研究法特論Ⅱ		2	第1学期	高橋翠講師		
犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)		2	集中(通年)	吉村雅世講師		
産業・労働心理支援特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)		2	第1学期	馬場洋介講師		
学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)		2	第2学期	伊藤亜矢子講師		
認知心理学特論2		意識研究における基礎的視座—— 「動物意識の誕生」を読む	4	通年		今井久登教授
社会心理学特論1		親密関係に関する社会心理学研究	4	通年		宮崎弦太准教授
社会心理学特論2	動機づけの科学	4	通年	伊藤藤忠教授		
教育心理学特論1	教育心理学研究の動向と展望	4	通年	篠ヶ谷圭太教授		
発達心理学特論1	発達研究の動向と課題	4	通年	山本政人教授		
臨床心理基礎実習		2	通年	北山純輔教授		
臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習Ⅱ)		1	通年	江野眞理教授		
臨床心理実習Ⅱ	インテンシブなスーパービジョンによる 事例担当実習	1	集中(通年)	吉川眞宏教授		
心理実践実習Ⅰ		1	集中(通年)	北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		
				吉川眞理教授		
				北山純輔教授		
				江野眞理教授		
				北山純輔教授		

X 教育学専攻

1. 専任教員及び研究分野

氏名	職名	研究分野・研究主題	研究の特徴・重点など
秋田 喜代美*	教授	学校教育学、授業研究、カリキュラム研究	学校や園でのこどもと教師の学びと発達過程に関する研究をしている。
飯沼 慶一	教授	環境教育、生活科教育、理科教育	自然と子どものかかわりに視点をいた環境教育に取り組んでいる。
伊藤 亜矢子*	教授	学校臨床心理学	スクールカウンセリング、学級風土アセスメントによるコンサルテーション、など校内での心理支援について研究している。
岩崎 淳*	教授	国語教育	学校教育における国語科の学習指導に重点をおいている。
梅野 正信*	教授	社会科・公民科教育、人権教育	いじめ問題、ハンセン病問題、東アジア関係等、社会的課題の教材授業研究、実践史研究に取り組んでいる。
黒川 雅子	教授	学校教育学、教育法規	学校観の変容を踏まえ、学校教育の在り方について、スクール・コンプライアンスの視点から研究している。
佐藤 陽治	教授	体育教育、野外教育、保健教育	運動生理学を中心としたスポーツ科学、健康などの科学的分析。野外教育活動の意義。
嶋田 由美*	教授	音楽教育、音楽教育史研究	教材に焦点をあてた音楽教育史研究、及び日本人のリズム変容に関する研究を推進している。
須田 将司*	教授	教育史、教育会史、地域と学校の関係史	特に1930-60年代を中心に、恐慌、戦時、復興から高度成長へ至る激動期における学校と教員の役割や模索の実態解明を行っています。
小原 豊	教授	算数・数学教育、情報教育	数学教育を中心として、STEM教材開発や事例研究に取り組みつつその特性を解明している。
宮盛 邦友	准教授	教育学、臨床教育学、教育法学	現代教育における子どもの権利と学校の公共性に関する教育法哲学的研究に取り組んでいる。

※ *の付してある教員は、博士後期課程の指導教員も担当です。

XI アーカイブズ学専攻

1. 専任教員及び研究分野

氏名	職名	専門分野・研究主題	研究の特徴・重点など
久保山 哲二	教授	情報科学、計算アーカイブズ学	大量の電子資料の保存・組織化・検索・展示に情報科学の知見（機械学習、ビッグデータ分析等）を取り入れ、アーキビストを支援するための新しい方法論を開拓する。
下重 直樹	教授	アーカイブズ学、記録・アーカイブズ研究	記録・アーカイブズ研究を軸として、中長期的な制度設計と改善策を展望する観点から、日本を中心とした記録管理システムの史的経緯も視野に制度研究を進めている。
武内 房司	教授	記録・アーカイブズ研究	中国・ヴェトナムを中心とした東アジア・東南アジア世界における記録システムの研究や、とくに中国の国家・社会集団の残した記録史料群の構造を研究する。
千葉 功	教授	記録・アーカイブズ研究	日本の近代における組織の構造と機能を、記録作成システムの分析から研究する。とくに近代の記録史料群の特質をアーカイブズ学的に検討する。
保坂 裕興	教授	アーカイブズ学、アーキビスト教育論	公文書館や企業アーカイブズにおける専門職教育、また基盤となる理論・標準・倫理について国際的観点から検討している。

2. 2024 年度講義題目及び担当者

授業科目（講義題目）	副題	単位	開講期間	担当者	備考
アーカイブズ学概論Ⅰ	現代アーカイブズ制度とその機能	4	通年	下重 直樹	教授
アーカイブズ学概論Ⅱ	現代アーカイブズの構築と実施	4	通年	保坂 裕興	教授
アーカイブズ学理論研究Ⅰ	アーカイブズ及びアーキビストの歴史	2	第1学期	青木 祐一	講師
アーカイブズ学理論研究Ⅰ	アーカイブズ及びアーキビストの歴史（近現代）	2	第1学期	宮間 純一	講師
アーカイブズ学理論研究Ⅱ	海外文献を読む（入門）	2	第1学期	坂口 貴弘	講師
アーカイブズ学理論研究Ⅱ	海外文献を読む（応用）	2	第2学期	坂口 貴弘	講師
記録アーカイブズ研究Ⅰ	前近代の組織と記録	2	第2学期	小宮山 敏和	講師
◆記録アーカイブズ研究Ⅱ	近現代日本の公文書管理制度成立史	2	第1学期	長坂 良宏	講師
◆記録アーカイブズ研究Ⅲ	現代日本の組織と記録	2	第1学期	千葉 功	教授
◆記録アーカイブズ研究Ⅳ	東アジアにおける記録の歴史と現在	2	第1学期	下重 直樹	教授
アーカイブズ管理研究Ⅰ	記録管理法論	2	第1学期	武内 房司	教授
アーカイブズ管理研究Ⅰ	記録管理法論	2	第2学期	早川 和宏	講師
アーカイブズ管理研究Ⅱ	現代の組織とレコードキーピング活動	2	第2学期	早川 和宏	講師
				下重 直樹	教授
				柏原 洋太	講師
				小宮山 敏和	講師
				小島 田幸	講師
				村上 大輔	講師
				吉田 敏也	講師
アーカイブズ管理研究Ⅱ	レコード・マネジメント論	2	集中（通年）	古賀 崇	講師
アーカイブズ管理研究Ⅲ	記録アーカイブズ保存と修復（基礎）	2	第1学期	青木 睦	講師
アーカイブズ管理研究Ⅳ	記録アーカイブズ保存と修復（応用）	2	第2学期	青木 睦	講師
アーカイブズ管理研究Ⅳ	視聴覚アーカイブ論	2	第1学期	児玉 優子	講師
アーカイブズ管理演習	アーカイブズの編成と記述	4	通年	加藤 聖文	講師
デジタルアーカイブズⅠ	システムデザインと法務	2	第1学期	下重 直樹	教授
				塩崎 亮	講師
デジタルアーカイブズⅡ	アーカイブズサービスの構築と提供	2	第1学期	嘉村 哲郎	講師
				篠原 和子	講師
				吉田 敏也	講師
デジタルアーカイブズ演習	アーカイブズ情報処理論	4	通年	久保山 哲二	教授
情報資源論Ⅰ	図書館情報サービスの歴史と理論	2	第2学期	水谷 長志	講師
情報資源論Ⅱ	ミュージアム・アーカイブズ入門	2	休講		
アーカイブズ学演習	アーカイブズ学研究法	4	通年	保坂 裕興	教授
アーカイブズ学演習	アーカイブズ学研究法	4	通年	下重 直樹	教授
アーカイブズ実習	実地経験による理解と発見	4	通年	保坂 裕興	教授
アーカイブズ実習	実地経験による理解と発見	4	通年	下重 直樹	教授
博士論文指導（アーカイブズ学専攻）		2	集中（通年）	保坂 裕興	教授

◆印は大学院授業科目であるが、学部生が履修する場合もある。

XII 身体表象文化学専攻

1. 専任教員及び研究分野

氏名	職名	専門分野・研究主題	研究の特徴・重点など
佐々木果	教授	マンガ・アニメーション芸術文化論	マンガ・アニメーション芸術批評研究／芸術文化論演習 A を担当。マンガやアニメーション及びその関連領域について広く学際的な関心を持って研究しています。マンガの編集者として創作の現場に関わっていた経験から、作品の成り立ちや文化的な問題には関心がありますが、それ以上に歴史研究に力を入れて取り組んできました。マンガやアニメーションなどのメディアを日本だけでなくグローバルな観点から歴史としてとらえ、その上であらためて現代的な問題に切りこんでいきたいと考えています。
田丸理砂	教授	ジェンダー文化論	「身体表象文化論」を担当。社会の民主化及び大衆化とジェンダーイメージの関係性に注目して研究を進めています。なかでも世界のグローバル化の先駆けともいえる「モダンガール」現象、そして「少女」「女の子」のイメージに関心をもっています。今日、文化研究にはジェンダーの視点は欠くことはできませんが、ジェンダーとともにセクシュアリティ、階層（格差）、エスニシティなどと組み合わせさせた交差性も強く意識していきたいと考えています。
中条省平 [◎]	教授	映像芸術文化論	「映像芸術文化論」の分野を担当。パリ大学文学博士。フランスのヌーヴェル・ヴァーグを中心に、アメリカ及び日本の映画についても研究してきました。その成果は、『フランス映画史の誘惑』『クリント・イーストウッド』『映画作家論 リヴェットからホークスまで』等の著書にまとめました。映画史、技法、作家性、テーマ、社会史を横断する総合的な映画研究をめざしています。「日本経済新聞」で映画時評も定期的に執筆中。
中野春夫	教授	身体表象文化史	「身体表象文化史」の分野を担当。国際演劇評論家協会、日本英文学会、日本シェイクスピア協会に所属。本専攻では、身体表象に関する歴史的な文化差異を演劇作品や図像、絵画、マンガ、アニメなどから系譜学的、受容史的に分析していきたいと思っています。主要著書は『恋のメランコリー シェイクスピア喜劇世界のシミュレーション』、「シェイクスピアは彼らの同時代人」(『英語青年』連載論)、『シェイクスピアの英語で学ぶ決め台詞』。
水野雅司	教授	映像芸術文化論	「映像芸術文化論演習 B」を担当。主に第二次世界大戦期の体験や出来事の影響のなかで創作している作家・芸術家を中心に研究をしています。現在でも戦禍や災厄に敏感に反応した作品が生み出されていますが、言語化・物語化しがたい体験や感情を伝達するために芸術家たちがどのような表現形式の探求・創造を試みているのかという観点から、映像芸術における表現の問題について理解を深めていければと考えています。

※◎の付してある教員は、2025年3月退職予定です。

2. 2024 年度講義題目及び担当者

授業科目（講義題目）	副題	単位	開講期間	担当者	備考
舞台芸術批評研究	日本演劇の表現原理を探る	4	通年	横山太郎 講師	
映像芸術批評研究 A		4	通年	飯岡詩朗 講師	
◆映像芸術批評研究 B	越境するメロドラマ	4	通年	鷺谷花 講師	
◆マンガ・アニメーション芸術批評研究		4	通年	佐々木果 教授	
◆舞台芸術文化論演習	歌と踊りのない演劇はなぜヨーロッパで生まれたのか	4	通年	横山義志 講師	
◆映像芸術文化論演習 A	映画の技法分析	4	通年	中条省平 教授	
◆映像芸術文化論演習 B	カタストロフィの記憶と映像表現	4	通年	水野雅司 教授	
マンガ・アニメーション芸術文化論演習 A		4	通年	佐々木果 教授	
◆マンガ・アニメーション芸術文化論演習 B		4	通年	三輪健太郎 講師	
◆身体表象文化論演習	近年のジェンダー研究の動向を追う	4	通年	田丸理砂 教授	
身体表象文化史演習		4	通年	京谷啓徳 教授	
◆表象文化制度論演習 A	ドラマの構造分析	4	通年	松井憲太郎 講師	
◆表象文化制度論演習 B	バレエとジェンダー	4	通年	高橋由季子 助教	
修士論文指導（身体表象文化学専攻）		2	集中（通年）	佐々木果 教授	
博士論文指導（身体表象文化学専攻）		2	集中（通年）	佐々木果 教授	

◆印は大学院授業科目であるが、学部生が履修する場合もある。

XIII 各専攻共通

2024 年度講義題目及び担当者

授業科目（講義題目）	副 題	単 位	開講期間	担 当 者	備 考
言語学特殊研究（大学院）	認知文法研究	4	通年	西 村 義 樹 講 師	注1)
◆ギリシア・ラテン文学特殊研究	『黄金のロバ』の世界	2	集中(第1学期)	本 間 俊 行 講 師	注1)
◆ギリシア・ラテン文学特殊研究	トロイア伝承と初期ギリシア叙事詩—『イーリアス』を中心に—	2	第1学期	古 澤 香 乃 講 師	注1)
◆上級古典語（古典ギリシア語）	クセノフォン『ソクラテスの思い出』講読	2	第1学期	吉 武 光 雄 講 師	注2)
◆上級古典語（古典ギリシア語）	ギリシア語韻文を読む	2	第2学期	古 澤 香 乃 講 師	注2)
◆上級古典語（ラテン語）	アウグスティヌス『告白』講読	2	第1学期	木 村 茂 講 師	注2)
◆上級古典語（ラテン語）		2	第1学期	古 澤 香 乃 講 師	注2)
◆漢語原書講読		4	通年	王 瑞 来 講 師	注2)
比較文学特殊研究（大学院）	魔性の女	4	通年	南 條 竹 則 講 師	注2)
アカデミック・ライティング（大学院）		4	通年	MCPHALEN, Keith Andrew 講師	注1)
◆国際文化学特殊研究	東アジアの陶磁器文化を考察する	4	通年	金 寅 圭 講 師	注2)
				荒 川 正 明 教 授	注2)
◆国際文化学特殊研究		4	通年	青 木 祐 子 講 師	注2)
教育学演習I		2	第1学期	伊 藤 亜 矢 子 教 授	注3)
教育学演習II	臨床教育人間学	2	第1学期	宮 盛 邦 友 准 教 授	注3)
教育特殊研究I	読みの心理学と読書の発達と教育	2	集中(通年)	秋 田 喜 代 美 教 授	注3)
教育特殊研究II		2	第2学期	黒 川 雅 子 教 授	

◆印は大学院授業科目であるが、学部生が履修する場合もある。

注1) 複数回履修は不可。

注2) 複数回履修は可。

注3) 教職課程に関する科目であるため、各研究科所定の単位に含むことはできない。

委託生、科目等履修生

- 正規の学生の修学に妨げのない限り、委託生・科目等履修生の入学の制度があります。
- 委託生とは、官公庁、外国政府、その他の機関又は団体の委託に基づき本大学院において修学を許可された学生をいいます。
- 科目等履修生とは、本大学院において1科目又は数科目の修学を許可された学生をいいます。

※本冊子に関するお問合せは、下記宛にお願いいたします。

学習院大学アドミッションセンター（西 5 号館 4 階）

〒171-8588 東京都豊島区目白 1-5-1

TEL (03) 5992-1083・(03) 5992-9226

Email adms-enq@gakushuin.ac.jp

窓口受付時間 平 日 9:00~11:30、13:00~16:30

土曜日 9:00~12:00

<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/>